

チルドレンファーストの社会の実現に向けた 子供政策強化の方針2025



令和7（2025）年8月

一人ひとりと生きるまち。  東京都

チルドレンファーストの社会の実現に向けて

- 子供の声や思いに耳を傾け、**子供目線に立って**政策のバージョンアップを不断に図っていく。
このスタンスは**子供政策の原点**です。**子供を客体ではなく、主体として捉え**、当事者である子供の声を中心に据えて**「子供の最善の利益」**という観点から子供政策を推進しています。
- 都は、毎年度、子供目線で捉え直した政策の「現在地」と子供との対話を通じた「継続的なバージョンアップの指針」として、**「こども未来アクション」**を策定しています。このアクションを基軸として、子供との対話を重ねながら、既存の枠組みでは対応が困難な課題に対して政策分野の垣根を越えて取り組むリーディングプロジェクト等を展開し、国や他自治体に先駆けて子供目線に立った**様々な政策を歩みを止めることなく実践**してきました。**子供の実態、声や思いを政策に反映することが全庁に浸透**するとともに、**リーディングプロジェクトの一部は、着実な実施段階のフェーズ**へと至っています。
- 一方で、子供を取り巻く環境や直面する課題は、**複雑化・複合化**するとともに、**刻々と変化**し続け、**新たな課題**も生じています。社会情勢の変化や子供の意見・エビデンスを踏まえて明らかとなった課題の解決を目指して、**アジャイルに政策を改良・強化**する観点から、**着実な実施段階に至ったリーディングプロジェクトを再構築**するとともに、**速やかに子供政策を実行**するため、**新たなリーディングプロジェクト**を立ち上げていく必要もあります。
- **「チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化の方針2025」**は、子供を取り巻く様々なデータや子供の声等を整理しながら、子供政策の課題と今後の政策強化の方向を示すものです。
本方針に基づき、**来年度予算編成において子供政策の更なる加速と新たな展開**につなげ、年度内を目途に、その内容を反映した**「こども未来アクション2026（仮称）」**を策定します。
- 子供との対話を重層的に実践しながら、全庁一丸となって次の時代の主役である子供たちの可能性を育む政策を推進し、「いま」と「みらい」を子供と一緒につくっていくことで、**子供の笑顔あふれるチルドレンファーストの社会の実現**を目指してまいります。

チルドレンファーストの社会 ～全ての子供の笑顔を育む～

▶「2050東京戦略」

戦略01子供(Children)

2050年代のビジョン

「全ての子供の笑顔を育み、チルドレンファーストの社会へ」



▶東京都こども基本条例

「子どもの権利条約」の精神にのっとり、**子供を権利の主体として尊重し、子供の最善の利益を最優先にする**という基本理念を明確化

子供の安全安心、遊び場、居場所、学び、意見表明、参加、権利擁護等、**多岐にわたる子供政策の基本的な視点を一元的に規定**



安全安心の確保



遊び場、居場所づくり



学び、成長への支援



意見表明
施策への反映



こどもの権利の
広報・啓発



相談への
対応

▶こども未来アクション

子供目線で捉え直した**政策の「現在地」**と、子供との対話を通じた**「継続的なバージョンアップの指針」**

2023年



▶チルドレンファースト
子供政策の加速に向けた
論点整理

2024年



▶チルドレンファーストの
社会の実現に向けた
子供政策強化の方針2023

2025年



▶チルドレンファーストの
社会の実現に向けた
子供政策強化の方針2024

こども未来アクション
2026 (仮称)
子供政策の
更なる加速・
新たな展開



▶チルドレンファーストの
社会の実現に向けた
子供政策強化の方針2025

連携

法定計画

東京都子供・若者計画

東京都子供・子育て
支援総合計画

社会環境が変化する中での子供の「今」

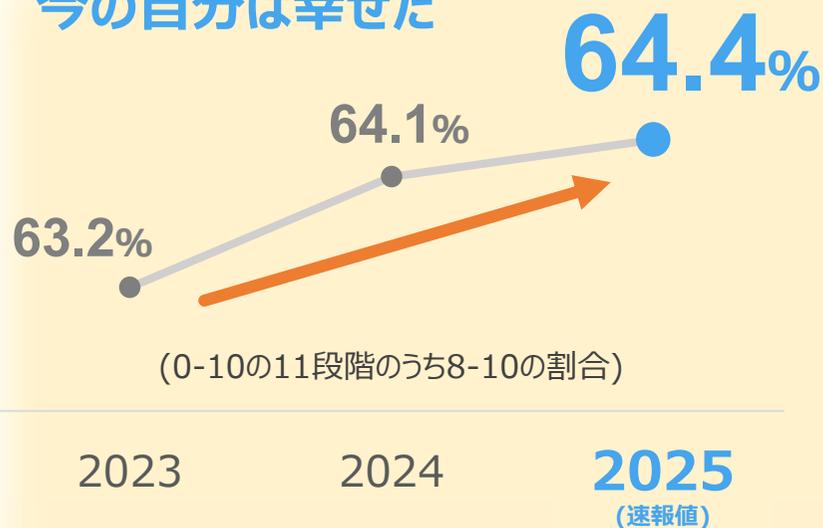
子供に関する定点調査 「とうきょう こども アンケート ～みんなと考える『いま』と『みらい』～」

子供に関する実態や意識の変化を継続的に把握するため、2023年から調査を実施

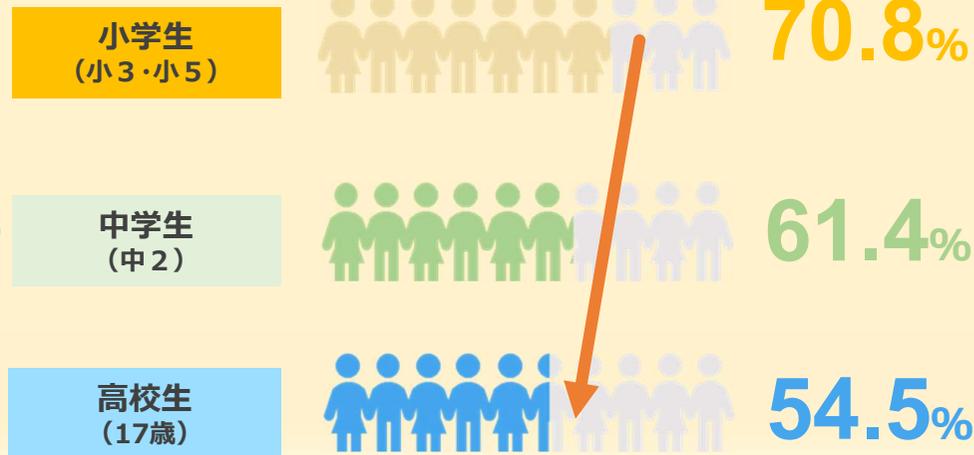
- 調査対象 都内在住の小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳の子供及びその保護者並びに3歳児の保護者 計10,500世帯 ※2023年調査は7,500世帯

子供の幸福度

今の自分は幸せだ



全体的に東京の子供は、「今の自分は幸せだ」について肯定的に評価している割合が高いが、**学年が上がるにつれて低下傾向**



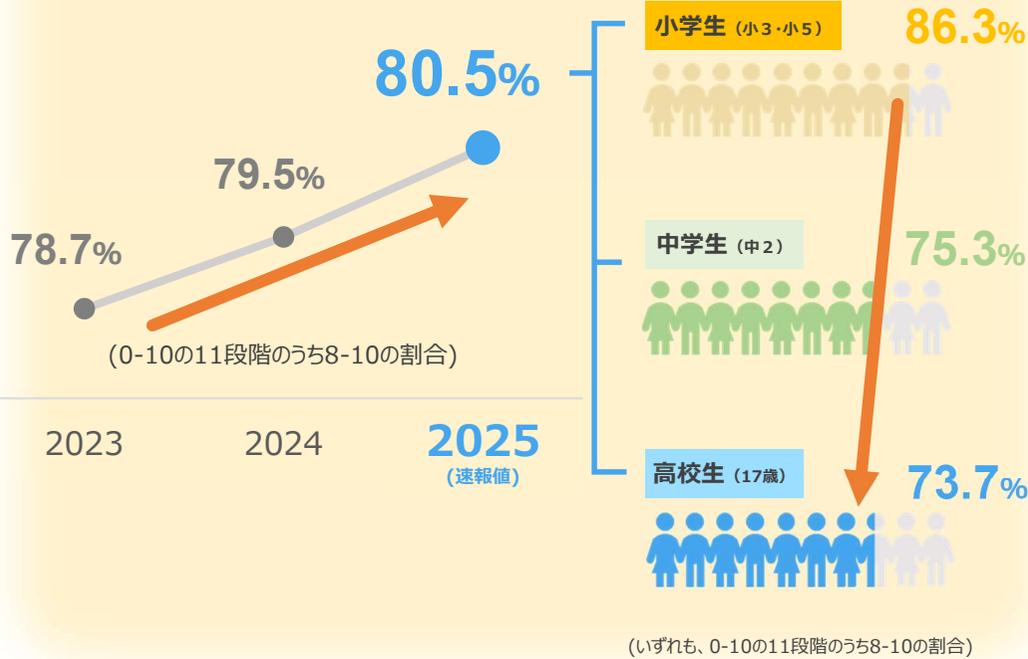
(いずれも、0-10の11段階のうち8-10の割合)



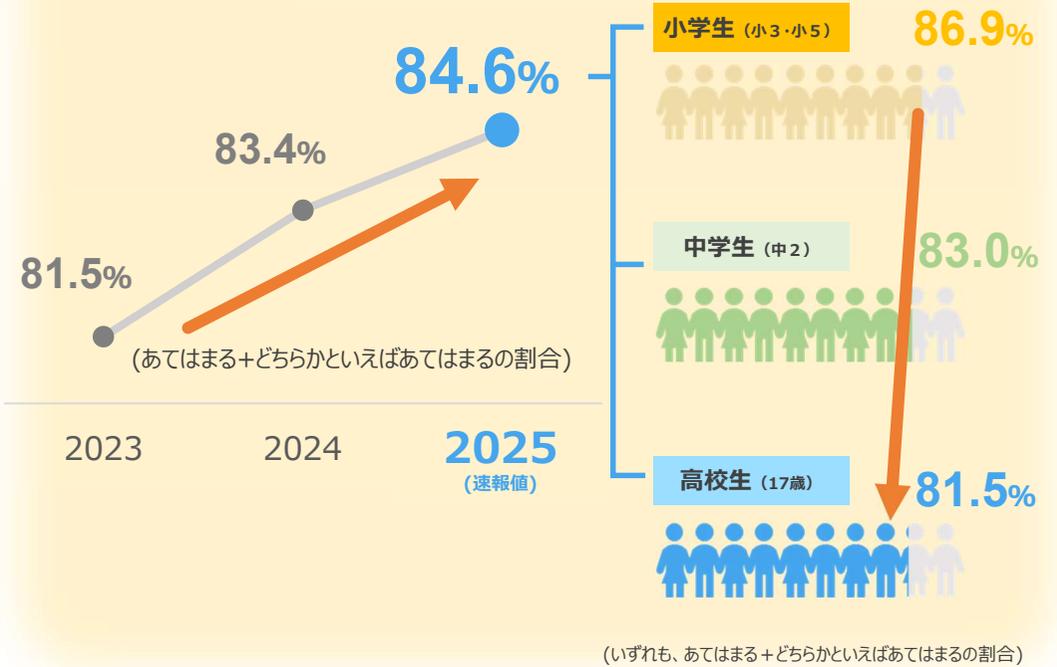
「家族との良好な関係」や「学校等の居心地の良さ」についても、学年が上がるにつれて低下傾向



家族との関係は良好だ



学校等は自分にとって居心地が良い



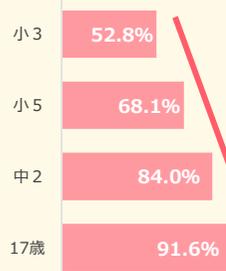
子供を取り巻く環境が複雑化・複合化する中で生じた新たな課題

子供の悩み

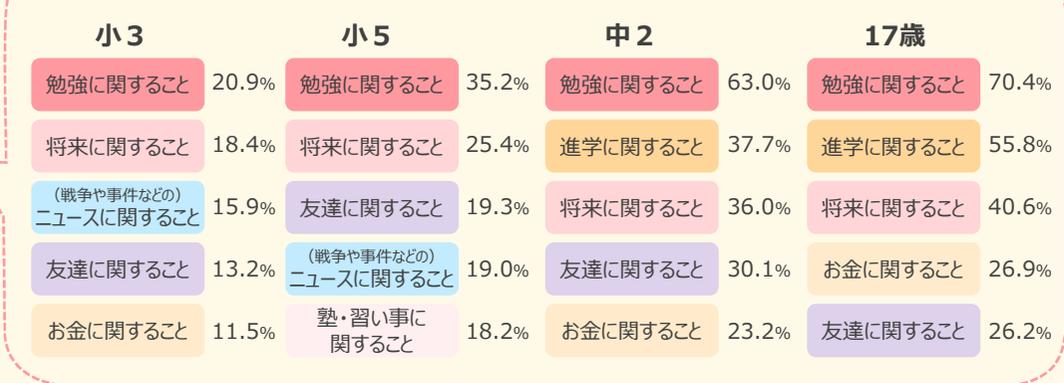
あなたは今、悩んでいることはありますか

学年が上がるにつれて悩みを抱える割合は高くなり、悩みの内容は様々

悩んでいることがある割合



【今悩んでいること・上位5項目（学年別）】 ※複数回答



(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

思春期のメンタルヘルス

- 世界的にも思春期のメンタルヘルスは深刻な課題
- 世界の中でも日本の青少年の自殺率は高い

WHO (2024年10月掲載記事)

- 世界的には10歳～19歳の7人に1人が精神疾患を経験
- 自殺は、15歳～29歳の死因の第3位

(資料) World Health Organization Webサイト「Mental health of adolescents」を基に作成

10歳～19歳の自殺による死亡率

※死亡率は、人口10万人当たりの死亡数



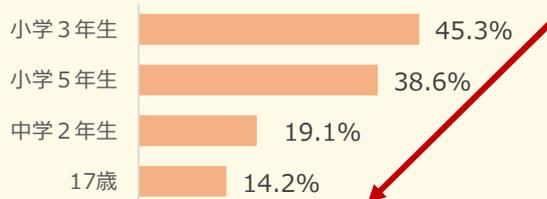
(資料) 厚生労働省「令和6年度自殺対策白書」を基に作成

子供の居場所

中高生の地域にほっとできる居場所が少ない

あなたにとって安心できる居場所はどれですか

地域 (図書館、公民館、児童館、公園など)

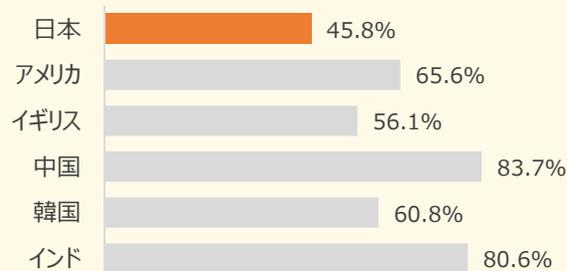


(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

社会との関わり

日本は他国よりも「自分の行動で社会を変えられる」という意識が低い

自分の行動で国や社会を変えられると思う



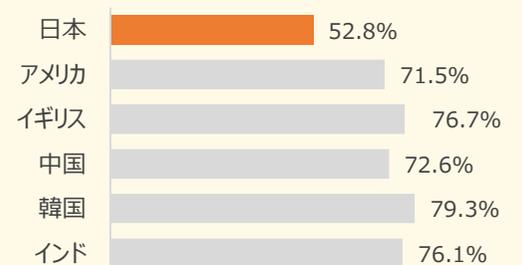
※各国の17歳～19歳男女が回答

(資料) 日本財団「18歳意識調査 (2024年)」を基に作成

海外志向

日本の海外志向は、諸外国と比べて弱い

機会があれば留学や他国で就労をしてみたいと思う



※各国の17歳～19歳男女が回答

(資料) 日本財団「18歳意識調査 (2024年)」を基に作成

～日本の子供のウェルビーイング(幸福度)～

(資料) ユニセフ「レポートカード19」を基に作成 <https://www.unicef.or.jp/news/2025/0081.html>

- ユニセフ イノチェンティ研究所は、世界36か国の「子どもの幸福度」について報告書を5年ぶりに発表
- **日本の総合順位は、14位**であり、前回の20位から上昇
- 分野ごとの指標では、「**身体的健康**」は前回と同じく**1位**、**学問等に関する「スキル」**は前回より大きく順位を上げて**12位**
- 「**精神的幸福度**」は、前回より5つ順位を上げたものの、**32位**

<総合順位>

順位	国	前回順位
1位	オランダ	← 1位
2位	デンマーク	← 2位
3位	フランス	↑ 7位
4位	ポルトガル	↑ 17位
5位	アイルランド	↑ 12位
...		
13位	スロベニア	↓ 9位
14位	日本	↑ 20位
15位	リトアニア	↑ 33位
...		

<身体的健康>

「子供の死亡率」「過体重/肥満」

順位	国	前回順位
1位	日本	← 1位
2位	フランス	↑ 18位
3位	デンマーク	↑ 4位
4位	オランダ	↑ 9位
5位	チェコ	↑ 14位
...		

<スキル>

「学力」「社会的スキル※」

順位	国	前回順位
1位	アイルランド	↑ 6位
2位	スロベニア	← 2位
...		
12位	日本	↑ 27位
13位	ハンガリー	← 13位
...		

<精神的幸福度>

「生活満足度」「自殺率」

順位	国	前回順位
1位	オランダ	← 1位
2位	ポルトガル	↑ 6位
...		
31位	チリ	↓ 27位
32位	日本	↑ 37位
...		

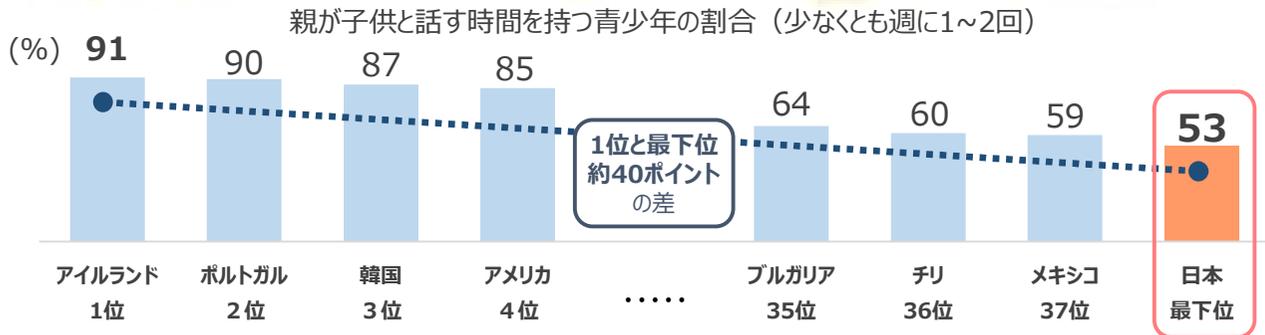
前回指標との詳細比較【日本】

分野	指標	前回	今回	前回との比較
身体的健康	子供の死亡率 (1千人当たりの死亡数)	0.77	0.72	0.05改善 ↑
	過体重/肥満	15.0%	16.3%	1.3ポイント悪化 ↓
スキル	学力	73%	76%	3ポイント改善 ↑
	社会的スキル	69.1%	74.8%	5.7ポイント改善 ↑
精神的幸福度	生活満足度	62%	71%	9ポイント改善 ↑
	自殺率 (10万人当たりの自殺者数)	7.37	10.41	3.04悪化 ↓

「生活満足度」は大幅に改善 ↑
 「自殺率」は大きく悪化 ↓
 日本は自殺率が最も大きく上昇した国の一つ

※社会的スキル：「すぐに友達ができる」と答えた15歳の生徒の割合

- 報告書では、青少年の生活満足度に影響を与える要因分析の中で、**親子の話す時間**についても掲載
- 15歳の子供が、少なくとも週に1～2回以上、両親と話す割合は、**日本は最下位**
- **1位のアイルランドとは約40ポイント差**

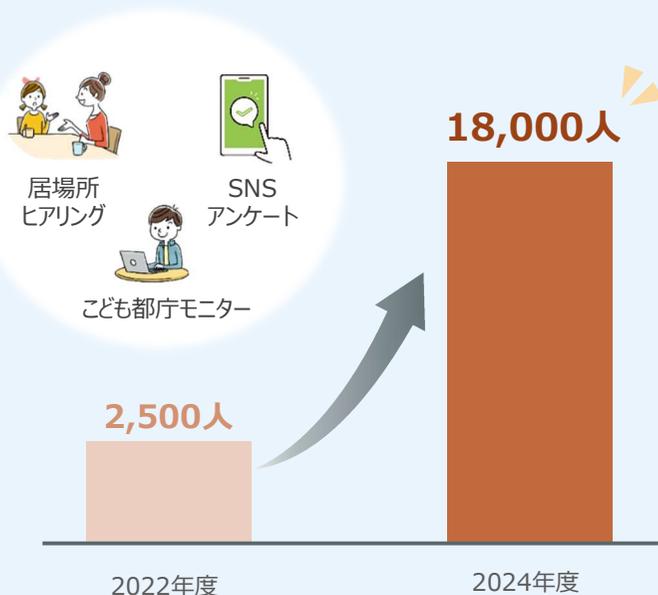


子供政策の「今」

- 2022年4月の室発足以降、国や他自治体に先駆けて子供目線に立った様々な子供政策を展開
- 取組開始から3年が経過し、**子供の実態、声や思いを政策に反映する取組が全庁に浸透**
- 既存の枠組みでは対応が困難な課題に対して**政策分野の垣根を越えて取り組むリーディングプロジェクトの一部は着実な実施段階へ**

1 子供の声を聴き、政策へ反映する仕組みが、都庁内に「浸透」

<子供の意見を聴いた数>



✓ 多様な手法で**子供の声をヒアリング**

中高生 政策決定参画プロジェクト



職業体験を
充実させたい！

職業体験を希望する中高生
と企業・団体とをマッチングする
Webサイトの構築を、
2025年度予算に反映

こどもワークショップ



政策企画局
未来の東京

都市整備局
多摩都市モルレル
延伸部のまちづくり

生活文化スポーツ局
東京2025世界陸上

世界陸上の
大会運営に
参加してみたい！

✓ **子供が都政にダイレクトに参画**できる先駆的取組を実施

今後の方針

「子供の声を政策に反映」を、**都全域に定着**

2

既存の枠組みでは困難な課題の解決に向けて、組織横断で対応

これまでのリーディングプロジェクトの主な取組

幼保共通

とうきょう すくわくプログラム



都内全域で展開

2023 ベータ版

14園で実践

2024 全域展開

約1,600園で実践

2025

実践園拡大
2,750園

子供や保護者が気軽にチャットで相談
“ギョツとチャット”

2025年1月先行稼働

【累計相談件数】
2,425件



ギョツぴい

2025年6月末時点

思春期のヘルスケア情報を発信

専用HP TOKYO YOUTH HEALTHCARE

2023年度開設
【累計PV数】
約108万PV

2025年6月末時点



子供の意見を反映した

遊び場づくり

～2025年度 22自治体採択



子供の事故情報を

一元的に集約した
オープンデータベース

2025年3月開設



ヤングケアラーの普及啓発

専用HP ヤングケアラーのひろば

2023年度開設

ヤングケアラーの
リアルボイス、
ドキュメンタリー動画 など



フリースクール等への支援

2024年度 補助制度創設
(利用者支援交付決定 3,154件)

多文化キッズサロンの設置促進

2023年度 補助制度創設

～学校風土を改善、子供が直面する問題の発生を未然に防ぐ～
学校の居心地向上検証プロジェクト

取り組む高校・中学校数を拡大

2024 スキーム
構築

2校で実践

2025

9校で実践

今年度の組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクト

✓ 乳幼児期の子育ち

- ・CEDEPと連携し、幼保共通の「すくわくプログラム」を展開



✓ 子育てのつながり創出

- ・子育て家庭を見守り寄り添う、アウトリーチ型の支援体制を充実
- ・子供や保護者がチャットで気軽に相談できるサービスを提供



✓ 学齢期の子育ち

- ・不登校対策を重層的に展開
- ・フリースクール等への支援を推進



✓ 学校の居心地向上

- ・学校風土を改善し、子供が直面する様々な問題を未然に防ぐ仕組みを構築

✓ 「体験活動」の推進

- ・学校内外で様々な体験活動を創出

✓ 「遊び」の推進

- ・子供の意見を反映した遊び場づくり
- ・遊びの機会創出と人材育成



✓ 子供を事故から守る環境づくり

- ・国や各局が保有する事故情報を一元的に蓄積したオープンデータベースを構築

✓ ヤングケアラーを支える

- ・専用HP「ヤングケアラーのひろば」を軸とした情報発信や多面的で切れ目のないサポート

✓ 日本語を母語としない子供を支援

- ・子供目線の居場所づくりや相談体制の構築

✓ ユースヘルスケア

- ・専用HP「TOKYO YOUTH HEALTHCARE」を軸とした情報発信や相談窓口の運営

✓ 国や他自治体に先駆けて子供目線に立った様々な政策を実践

今後の方針

新たに直面する課題に対し、新規のプロジェクトを組成

子供政策の全体像 「リーディングプロジェクト」と「政策の柱」

子供目線で政策全般を捉え直し、取組を展開することでチルドレンファーストの社会を目指す

既存の枠組みでは対応が困難な課題に対して組織横断で取り組む
子供を「主体」として捉えたリーディングプロジェクト

今後の方向性

- これまでの取組により、**着実な実施段階に至ったプロジェクトを再構築**
- 新たに直面する課題**に対しては、**新規のプロジェクトを組成**

<これまでのリーディングプロジェクト>

- 乳幼児期の子育ち
- 学齢期の子育ち
- 学校の居心地向上
- 子育てのつながり創出
- 日本語を母語としない子供を支援
- ヤングケアラーを支える
- ユースヘルスケア
- 子供の未来を育む「体験活動」の推進
- 子供の笑顔につながる「遊び」の推進
- 子供を事故から守る環境づくり

<今後のリーディングプロジェクト>

- 乳幼児期の子育ち
- 学齢期の子育ち
- 学校の居心地向上
- 再構築** 育ちを支える「つながり」の創出
- 再構築** 子供の未来を育む「体験活動・遊び」の推進
- 子供を事故から守る環境づくり
- 新たなリーディングプロジェクト
想定テーマ**
- 新規** 思春期の「メンタルヘルス」増進
- 新規** 多様な「子供の居場所」創出
- 新規** グローバルな感覚を育む機会の創出

都庁全体で取り組む
子供政策の4つの柱

【政策の柱1】

誰一人取り残さない視点から、
子供へのサポートを強化

【政策の柱2】

子育て家庭に寄り添い、
子供の育ちを支える環境を充実

【政策の柱3】

「東京型教育モデル」により、
教育の質を向上

【政策の柱4】

多様な主体と連携し、
子供の笑顔を育むアクションを展開

I 子供の意見やエビデンスに基づく子供政策の推進	12		
○ 子供政策の基本スタンス・政策展開のアプローチ	12		
○ 子供の実態、声や思いを反映した子供政策	13		
○ 都庁一丸となった子供の意見を聴く主な取組	15		
○ 東京都こども基本条例の普及啓発	17		
○ 子供とつながる情報プラットフォーム（東京都こどもホームページ・中高生Webサイト（仮称））	19		
II チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化	24		
II – 1 組織横断で取り組む「リーディングプロジェクト」の政策強化の方向	24		
✓ 乳幼児期の子育て	25	新たなリーディングプロジェクト	
✓ 学齢期の子育て	27	✓ 思春期の「メンタルヘルス」増進	37
✓ 学校の居心地向上	29	✓ 多様な「子供の居場所」創出	38
✓ 育ちを支える「つながり」の創出	31	✓ グローバルな感覚を育む機会の創出	39
✓ 子供の未来を育む「体験活動・遊び」の推進	33		
✓ 子供を事故から守る環境づくり	35		
II – 2 都庁全体で取り組む子供政策の強化の方向	40		
○ 政策の柱1 誰一人取り残さない視点から、子供へのサポートを強化	41		
○ 政策の柱2 子育て家庭に寄り添い、子供の育ちを支える環境を充実	43		
○ 政策の柱3 「東京型教育モデル」により、教育の質を向上	45		
○ 政策の柱4 多様な主体と連携し、子供の笑顔を育むアクションを展開	47		
○ 政策強化の方向	49		

I 子供の意見やエビデンスに基づく子供政策の推進

子供政策の基本スタンス

子供を客体でなく**主体**として捉え、生まれてから幼児期、学童期、青年期など、ステージを通じて**一貫してサポート**し、誰一人取り残すことなく、**全ての子供たちの可能性を大切に育んでいく**



子供の意見やエビデンスに基づき、**子供の実情や抱える課題を的確に把握**し、**子供に寄り添った子供のための実効性ある政策**を練り上げ、機動的に展開していく



政策展開のアプローチ

都政の政策全般を「**子供目線**」で捉え直す



多様な主体と協働・連携を深め、社会全体で子供へのサポートを強化していく



DXの推進により、新たな時代にふさわしい取組を展開する

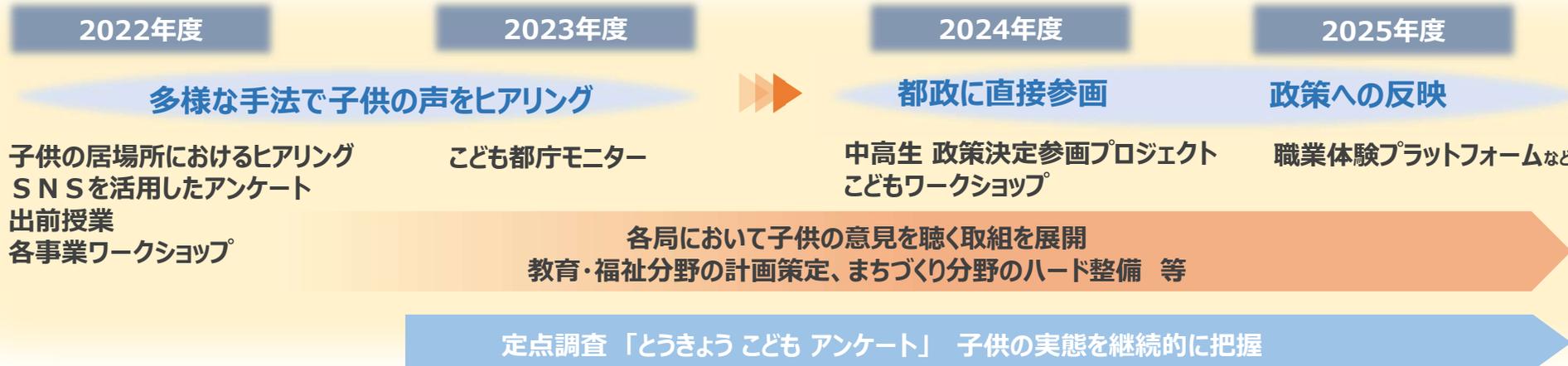


子供の実態、声や思いを反映した子供政策

多様な手法により異なる環境下にある子供の声を丁寧に聴くとともに、子供に関する実態や意識の変化を継続的に把握し、子供の意見を適切に政策に反映させることで、幅広い政策分野において子供目線に立った政策を推進

これまでの歩み

子供の声を聴き、政策へ反映する仕組みを都庁内に浸透



課題

- ✓ 子供の意見を聴く取組は、子供の自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高める上で重要な役割を果たす。
- ✓ 都では、子供の意見聴取・政策反映の取組を進めているものの、「自分の行動で社会を変えられる」と思う子供は、依然、半数を下回っている。

47.8%

(速報値)

自分の行動で社会を変えられると思うか

(そう思う+どちらかといえばそう思うの割合)

(調査対象：小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳)

(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょう こども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

地域レベルで更に取組を広げていく必要

今後の強化の方向

「子供の声を政策に反映」を
都全域に定着

区市町村への総合的支援により、
意見聴取の取組を広域的に促進

“中高生 政策決定参画プロジェクト”

都の子供政策を、
当事者である
子供自らが議論し、
都知事へ政策提案



2024年度の取組

「将来のためになるリアルな体験
活動の充実」をテーマに、グループ
ワーク等で議論を重ね、知事へ
政策提案



職業体験を希望する中高生と
企業・団体とをマッチングするWebサイトの
構築を、2025年度予算に反映

← 2025年7月にサイト開設

2025年度の取組

「中高生にビジネスや起業に親しみをもって
もらおう」をテーマに、中高生が活発に議論し、
政策を考えていきます



“こどもワークショップ”

各局施策をテーマに、
子供の生の声や
ニーズを把握し、
施策の充実に活用



2024年度の取組

政策企画局

未来の東京

20年後の東京は
どうなっている？

東京都の新たな戦略
「2050東京戦略」
策定に活用

生活文化スポーツ局

東京2025世界陸上

大会を通じて、わたしたちが
実現できること

大会を通じて東京の
未来につなげる取組
に活用

都市整備局

多摩都市モルレル
延伸部のまちづくり

わたしたちが『住みたい・
行きたい！』まちとは？

多摩都市モルレル
延伸部のより魅力的な
まちづくりに活用

2025年度の取組

都市整備局・教育庁・
財務局

神宮前五丁目地区
のまちづくり

新しい図書館・
劇場・広場でやって
みたいことは？

環境局

自然豊かな東京

東京の自然や生きものに
ついて考えてみよう！

教育庁

もっと学びたくなる、
新しい高校のアイデア

未来の学校を、
君と作る。

※両事業とも、今年度の参加者の募集は終了しています

都庁一丸となった子供の意見を聴く主な取組

福祉・教育

こども向けバリアフリーアニメーション

福祉局

- 小学生にアニメーションのシナリオについてヒアリングを行い、より分かりやすく、興味を持てる動画を制作



東京都児童相談所一時保護所 第三者委員

福祉局

- 第三者委員が、一時保護所に入所中の児童から、保護所での生活等に関する相談を直接聴取
- 運用の改善に向けた取組に反映



高校生いじめ防止協議会

教育庁

- 高校生が、いじめ防止について考え、どのような取組が必要であるかを議論し、都教育委員会へ提案
- 高校生からの提案事項は、都教育委員会の施策として実施予定



環境

エネキッズデイ!

～見て作って学んで自然エネルギーを身近に感じよう～

環境局

- 洋上風力をはじめとする自然エネルギーに関するイベントを島しょで開催し、洋上風力や島の将来像等について、各島に暮らす子供たちから意見を聴取
- 地域の将来を担う子供たちの意見を今後の取組に反映予定



東京グリーン・キャンパス・プログラム

環境局

- 自然保護に関する知識と実践を一体的に学べる教育プログラムを実施し、次世代の保全活動を担う人材の育成を促進
- アンケートで聴取した子供の意見を教育プログラムへ反映予定



まちづくり

都立公園の整備

建設局

- 都立公園の遊具改修において、周辺の小学校・保育園等の子供たちに設置してほしい遊具等についてアンケート調査を実施
- 子供たちの意見を設計内容に反映

新宿駅再編整備を題材としたまちづくり体験学習

都市整備局

- 「新宿駅の歴史」に関する出前授業や「新宿グランドターミナルの再編」に関する現場見学会を実施
- 現場見学会等に参加した子供の意見を、新宿駅再編整備の理解・協力促進の取組に反映



地下空間への浸水対策避難訓練イベント

都市整備局

- 夏休みに小学生の親子が参加するイベントとして、突然の豪雨による地下空間の浸水を想定した避難訓練を開催
- アンケートの意見を地下街等浸水対策の取組に反映

東京ベイeSG賞

スタートアップ戦略推進本部

- 「Minecraft」の作品コンテストと連携し、高校生以下の子供から未来のまちのアイデアを募集
- 東京ベイeSGプロジェクトが目指す都市像に合致する作品を「東京ベイeSG賞」として表彰
- 子供たちのアイデアを今後の取組に反映

TOKYO強靱化プロジェクト

政策企画局

- 小学生から高校生等の子供に対し、不安を感じる災害や、その不安を解消するための取組等についてアンケートを実施
- 「TOKYO強靱化プロジェクト」の充実・強化に向け、意見を反映予定

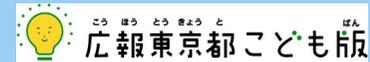
「100年先も安心」を目指して
TOKYO 強靱化 PROJECT

都政

広報東京都こども版

政策企画局

- 小学生を対象にアンケートを実施し、結果を今後作成する企画へ反映予定



都民による事業提案制度

財務局

- 満15歳以上の都民（高校1年生相当以上）から提案された事業案を公表し、都民による投票を実施
- 投票により選定された事業案を次年度予算案に反映



知事と議論する会

政策企画局

- 子供の笑顔があふれる社会の実現に向け、子供の目線に立った施策を推進するため、子供が意見表明を行い、直接、知事と語り合う機会として実施
- 子供たちの意見を関係局へフィードバックし、施策の検討に活用



昨年度の様子

東京都子ども基本条例の普及啓発

全ての子どもが誰一人取り残されことなく、あらゆる場面で社会の一員として尊重され、健やかに育つ環境を整備するためには、子どもをはじめ、全ての都民に条例の基本理念を普及啓発していくことが重要

これまでの主な取組

始動：～2023年度

- 条例ハンドブック
「子ども編集者」(小中高生の子供たち)が制作
- 条例解説動画
「子どもクリエイター」(小中高生の子供たち)が制作
- 中高生海外派遣
海外の子供政策先進都市を中高生が訪問し、意見交換



普及啓発の強化：2024年度

- 普及啓発コンテンツを活用した広報
- ポスターコンクール
- 人権教育プログラムへの実践事例掲載
- 大人への条例理解促進
- こどもシンポジウム TEENS SQUARE
- 東京子ども政策国際会議

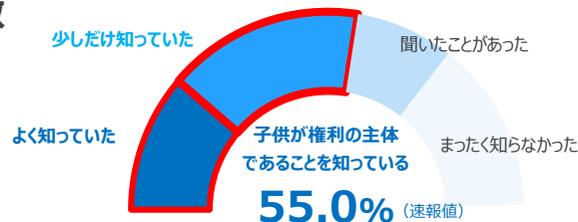
都民への浸透：2025年度

- 出張型条例ワークショップ
- 大人への条例理解促進 (出前講座)
- こどもシンポジウム TEENS SQUARE (国際版)



課題

✓ 東京都子ども基本条例の基本理念である、「**子供が権利の主体である**」ことを知っている子供の割合は**約半数**



(調査対象：小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳)
(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこどもアンケート」2025年調査の速報値を基に作成

基本理念の更なる浸透が必要

今後の強化の方向

普及啓発を**深化**させ、
東京都子ども基本条例の基本理念を着実に**都民へ浸透**

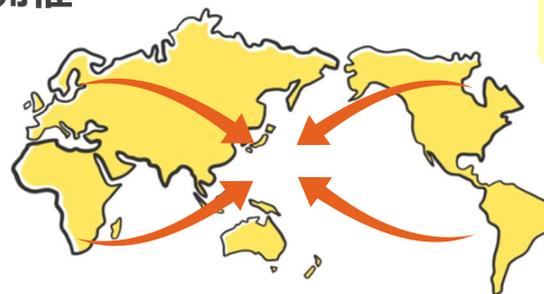
- ▶ **国内外での普及啓発や意見交換等を行う場を拡大・強化**
- ▶ **条例の基本理念を学んだ人材が普及啓発に向けて継続的に活躍できる仕組みを構築**

第2回東京こども政策国際会議 (Tokyo Global Forum on Children :TGFC)

海外都市の子供政策の実務責任者を招待した国際会議を開催

【開催日】 2026年2月

【内 容】 基調講演、各都市の発表・意見交換、
中高生によるプレゼンテーション、
都内の子供関連施設の視察等



子供政策先進都市など
(10~15都市) が参加予定

2024年度

海外**13都市**等の子供政策の実務責任者が参加！

第1回東京こども政策国際会議	
開催日	2025年2月5日(水) - 7日(金)
テーマ	「子供の声を中心に据えた都市の取組」
参加都市	ベルリン、ブリュッセル、カーディフ、ヘルシンキ、 アイルランド、ロンドン、マンチェスター、ウィーン、 バンコク、北京、上海、シンガポール、台北



各都市の発表に対する活発な意見交換



アイルランドへ渡航した中高生たちの発表

参加者の声

「都の作成している、**年齢層別の異なる4種類の条例普及ハンドブックが印象的**だった。ウィーンでも同様の取組を検討しており、参考になった」(ウィーン)

「今後、施策を検討するに当たり、**関わっていききたい多くの人と知り合うことができた**」(アイルランド)

「以前なかった『ひきこもり』などの問題が増えており、日本の対策を参考にしている。**都の取組を詳しく知りたい**」(シンガポール)

子供とつながる情報プラットフォーム

東京都こどもホームページ

- 子供たちが、東京に魅力を感じ、都政に興味・関心を持つことができる情報プラットフォームとして、子供たちの声を基に東京都こどもホームページを継続的にアップデート

とうきょうと こども
東京都こども
ホームページ



子供たちと一緒に作る

“一緒に”つくる “一緒に”育てる ～「子供の声」が、ホームページを動かしていく～



つくる

東京の魅力がわかるゲームが
もっとほしい

▶ 「タイピングレース」誕生！



育てる

タイピングは東京のことだけでなく他の
地域のこともやってほしい

▶ 他自治体に関連するワードを実装！



育てる

キャラクターを増やしてほしい

▶ 新たなキャラクターを追加！



全ての子供とつながる

“タテ串”の実践

～欠かすことのできない区市町村との連携～

2025年6月時点

- ▶ 学習コンテンツを授業にも活用
- ▶ 子供へのお知らせをペーパーレス化



目指す姿 全62区市町村へ

公立小学校
一人1台端末への
接続状況

東京都こども
ホームページ

2022年度

0

区市
町村

37

区市
町村

挑 戦 ゼロからの出発

庁内各局等との連携

ココ串

“輪”を広げる

タテ串

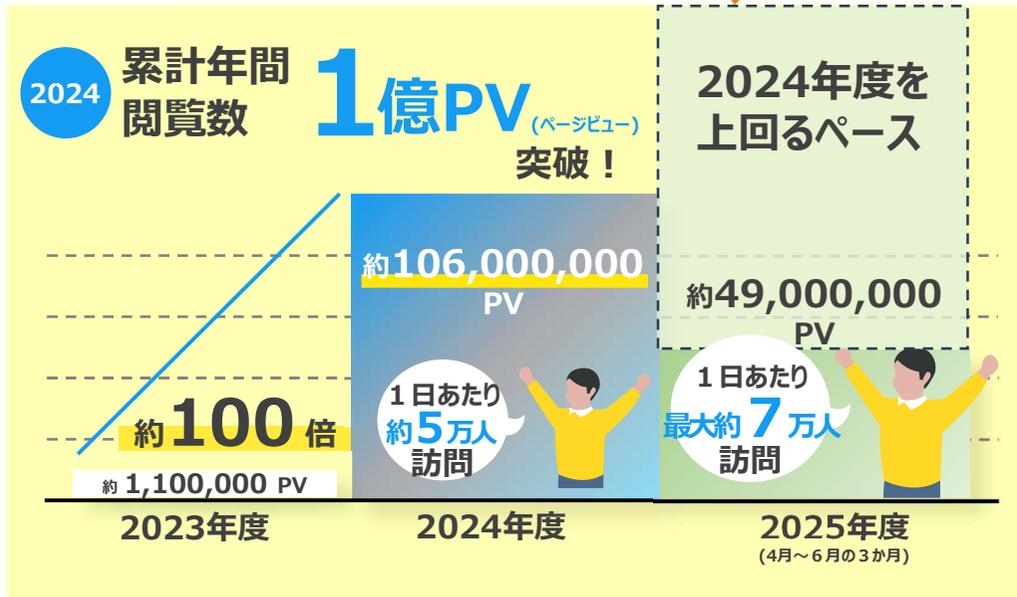
～庁内各局や国・自治体間の垣根を越える～



1億PV突破！

“圧倒的な支持”

～「当たり前じゃないコト」に挑み続けた成果～



庁内各局HPへのアクセス数が増加



Next

子供の声を聴きながら一緒につくるコンセプトを踏襲し、中高生向けのWebサイトを構築

中高生Webサイト（仮称）

- 子供の意見を基にホームページを作成・アップデートする方式を継承
- ユーザー目線を徹底し、中高生と一緒に、「都政への玄関口」としてのサイトを構築

中高生向けのWebサイトのコンセプト

学び

AIを活用した学習



つながり

都政の情報や
相談窓口とつながる

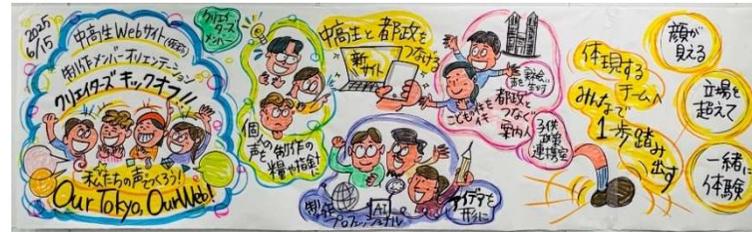


情報発信

中高生目線で
自ら情報を発信



“一緒に”つくる



継続的に中高生の意見を聴きながら、
日常的に利用したくなる魅力的なコンテンツを制作

2026年3月 本格稼働予定

ワークショップ、編集会議などの活動

7月～東京の魅力を取材

“中高生目線”で発信

2025年6月15日
制作メンバーオリエンテーション

6月ワークショップ開始

2025年4月制作メンバー募集



日本陸上競技選手権大会・MOWA取材の様子（2025年7月実施）

都内全ての子供たちの一人ひとりに寄り添ったサービスを提供

● 子供たちの「もっと知りたい」という知的好奇心を満たすコンテンツの充実強化

- ・ 継続的に子供の声を聴きながらコンテンツをアップデート
- ・ 国や各局、区市町村等のコンテンツとも連携
- ・ AIを活用した学習（中高生Webサイト（仮称））のブラッシュアップ

● 子供たちの不安や悩みに寄り添う

- ・ 「ギュッとチャット」を相談窓口の中核として、日々の悩みや不安を気軽に相談できる環境へつなげる

● 子供にとっての「都政への玄関口」として、各局等HPへの接続を強化

- ・ 東京都子どもホームページと中高生Webサイト（仮称）を通じて、各局等の子供政策のページへ送客し、情報プラットフォームとして活用促進



ギュっぴい
マスコットキャラクター

将来のビジョン

全ての子供たちとつながる情報プラットフォーム

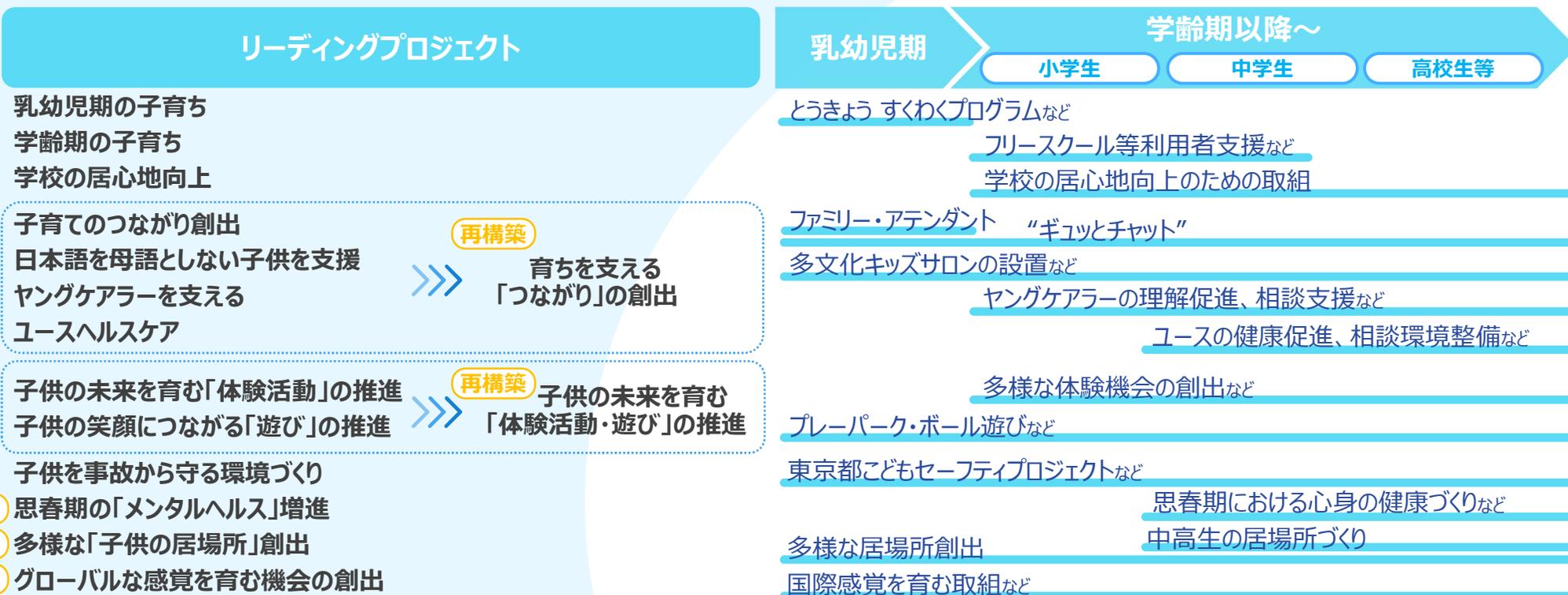




II チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化

II - 1 組織横断で取り組む「リーディングプロジェクト」の政策強化の方向

- 既存の枠組みでは対応困難な課題や先進的な取組等をリーディングプロジェクトに位置付け、シームレスに展開しています
- 各プロジェクトの取組状況と課題分析、今後の政策強化の方向を整理しています



保護者への「子育て」支援とともに、子供の成長・発達を応援する「子育て」支援の視点を加え、子供の生涯にわたる心身の健康やウェルビーイング等に資する取組を展開

概要

とうきょう すくわくプログラム推進事業

幼稚園・保育所等における幼児教育・保育の更なる充実を図るため、各園の環境や強みを生かし、乳幼児の興味・関心に応じた探究活動を実践



「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探究心（わくわく）」を応援する幼保共通のプログラム

【2024年度】 約1,600園で実践
【2025年度】 実践園を2,750園に拡大（予算規模）

多様な他者との関わりの機会の創出事業 医療的ケア児等の育ちの支援事業

保護者の就労等の有無にかかわらず、乳幼児期から多様な他者と関わり合うことができる場の創出



多様な他者との関わりの機会の創出事業 実績
【2023年度】 都内15自治体で開始
【2024年度】 都内42自治体で実施

乳幼児期の非認知能力の育成等、全ての乳幼児の「伸びる・育つ」をサポート

これまでの主な取組

2023年度

✓ とうきょう すくわくプログラムを策定



すくわくポータル

2024年度

✓ 実践をサポート（実践研修会の開催等）
✓ 戦略的な広報展開（ロゴや動画の制作、すくわくポータル開設等）

2025年度
（予定）

✓ 実践の質の向上を支援（すくわくナビゲーター園、ワークショップ等）

多様な他者との関わりの機会の創出事業 医療的ケア児等の育ちの支援事業

✓ 未就園児を対象に、定期的に預かる「多様な他者との関わりの機会の創出事業」を開始
※以下（多）と記載

✓ 運営費の充実、第二子以降の利用者負担額を無償化等（多）

✓ 新たに「医療的ケア児等の育ちの支援事業」を実施
✓ 9月以降、第一子の利用者負担額を無償化

課題分析

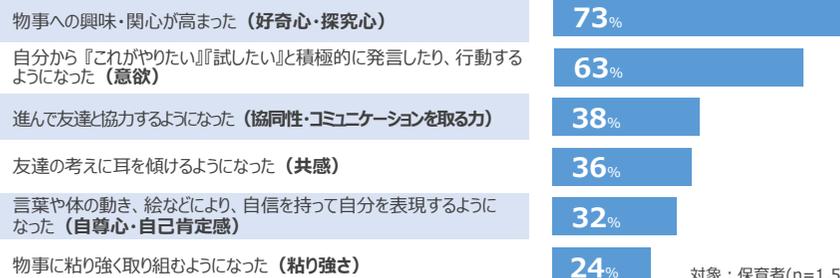
✓ すくわくプログラムを実践する園を拡大し、子供たちの多様な体験や経験の機会の創出が必要

子供の变化

- プログラムの実践により、好奇心・探究心や意欲が高まっている姿が見られる

探究活動を重ねた子供に、日常の幼児教育・保育の中で以下の変化はあったと感じたか

※複数回答



対象：保育者(n=1,586)

（資料）東京都子供政策連携室「とうきょう すくわくプログラム実践園アンケート」（実施時期：2025年3月～5月）を基に作成

✓ 保育者等が実践的かつ継続的に学ぶ・学びあう環境を整え、質の高いプログラムの実践をサポートすることが必要

実践研修会の参加園の声

- 探究活動の事例や他園の工夫を知りたい
- 悩みを相談できる場やアドバイスを受けられる場があれば教えてほしい

✓ 子育て家庭の多様なニーズに寄り添いながら、保護者の就労等の有無にかかわらず定期的に預かる取組の充実が必要

- 国は、「こども誰でも通園制度」を、2025年度から法律上制度化するとともに、2026年度からは全自治体で実施（給付化）するとしている

政策強化の方向

子供の成長・発達を応援する「子育て」支援の充実に向けて、多面的な取組を展開

とうきょう すくわくプログラム

■ 全域展開に向けた取組推進

- 実践に係る経費を補助し、園の取組を継続的に後押し
- CEDEPとの連携の下、実践の中で見られた子供たちの変化等を分析・検証
- すくわくポータル等で多様な取組を発信・共有し、保護者の認知度向上・理解促進

■ 実践における更なる質の向上に向けた重層的な支援を実施

- すくわくナビゲーター園との連携の下、多様な取組事例の紹介・発信を行うとともに、実践時の見学の受入れ等を通じてナビゲーター園が他園への助言等を実施
- 探究活動の更なるレベルアップを目指す園を後押し
- 日常の幼児教育・保育での探究活動の実践の定着を見据えた取組を実施

多様な他者との関わりの機会の創出事業 医療的ケア児等の育ちの支援事業

■ 実効性の高い事業展開

- 国の「こども誰でも通園制度」に加え、都独自の事業を通じて、保護者の就労等の有無にかかわらず定期預かりの取組等や幼稚園・保育所等における地域の子育て支援拠点としての機能の充実を支援

学校生活になじめない子供の学び・居場所の選択肢を多様化

概要

学校教育の
更なる充実

在籍校
との連携



学校外の学び・居場所
の創出

学校での
学び・居場所

【2025年度】
チャレンジクラスの設置 14校に拡大
不登校対応巡回教員の配置 104人に増員

学校外での
学び・居場所

【2024年度】 交付決定件数
フリースクール等利用者支援事業（助成金）3,154件
フリースクール等支援事業 48件

多様な
選択肢

学校+学校外の両方での
学び・居場所

これまでの主な取組

学校等における不登校対策

- ✓ 公立中学校に**チャレンジクラス**を設置するとともに、**校内別室に支援員**を配置
- ✓ 不登校の未然防止・早期発見・長期化への対応のため、**不登校対応巡回教員**を配置
- ✓ **スクールカウンセラー等の専門人材活用**や**教育相談主任の設置**等により**相談体制機能を強化**
- ✓ 都内全区市町村にガイドラインを提供し、研修を実施するなど、**スクールソーシャルワーカーの機能を強化**
- ✓ **学びの多様化学校**や**教育支援センター**の設置等を支援



学校外の学び・居場所の創出

- ✓ **フリースクール等**の利用者の**経済的負担軽減**のため、**利用料に対する助成制度**を創設
- ✓ 子供への「サポートプラン」の作成など、**子供目線に立った取組**を行う**フリースクール等への補助制度**を創設
- ✓ **子供の興味関心を引き出す支援方法**等を大学等と連携して検証し、**研究成果の事例集や動画**を公開



課題分析

✓ 不登校の子供が年々増加



(資料) 文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に作成

✓ 子供のケアのためには保護者への支援も不可欠

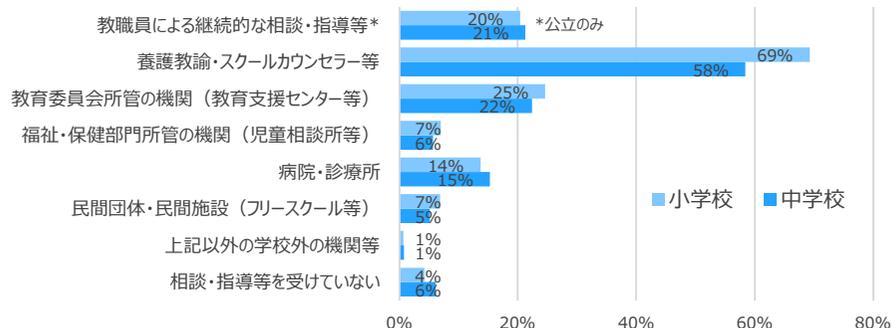
保護者の声

- 不登校経験者の話は、子供の理解と親の関わり方の参考になった
- 子供の居場所や、保護者が情報交換できる場所を知りたい

(東京都生活文化スポーツ局「東京都フリースクール等利用者等支援事業 保護者向けイベント」(2024年度実施) 参加者アンケートより)

✓ 不登校の子供の多くが公的機関と繋がっている

相談・指導等を受けた学校内外の機関等 (※複数回答)



(資料) 東京都教育委員会「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」及び東京都生活文化スポーツ局「令和5年度における都内私立学校の児童生徒の問題行動・不登校等の実態」を基に作成

✓ 一人ひとりの状況に応じた学びが重要

都内公立中学校のチャレンジクラスの成果 (2024年度設置10校)

- 登校日数増加のための取組の結果、約7割の生徒の平均出席率が向上
- 関係機関等につなぐ取組の結果、学校内外の機関等による相談・指導等を受けていない生徒が0人に

(東京都教育委員会「不登校生徒一人一人の状況に応じた学びの実現～チャレンジクラス (不登校対応校内分教室) の取組について～」(2025年2月) より)

政策強化の方向

多様なニーズや新たな課題に様々な方向から対応し、学校生活になじめない子供に**多様な学びの場・居場所の選択肢**を提供

■ 様々な不登校対策を多面的に展開

- 学校と子供をつなぎ、一人ひとりの状況に応じた支援を実施
- 学校と福祉等の関係機関が協働して支援する体制を充実
 - ・ 公立中学校で**チャレンジクラス**の設置促進
 - ・ 公立学校・教育委員会とフリースクール等との連携推進
 - ・ デジタルを活用した新たな居場所や学びの場 (バーチャル・ラーニング・プラットフォーム) の活用、**教育支援センター**の機能強化への支援、**スクールソーシャルワーカー**の活用など、区市町村における不登校対策を後押し
- 不登校児童生徒の**低年齢化**に対応するため、**幼児期と学齢期の円滑な接続**について**重層的に対策**を展開
 - ・ 学校生活になじめない子供の実態把握やその要因等の分析を行い、低学年の児童への対応を更に強化
 - ・ **エデュケーション・アシスタント**を小学校1年生の各クラスに1名配置するモデル事業を実施するなど、**児童が安心して学べる取組**を推進
 - ・ 保育所や学童クラブなどの**地域の資源**を活用し、多様な居場所づくりを推進

■ フリースクール等への支援を推進

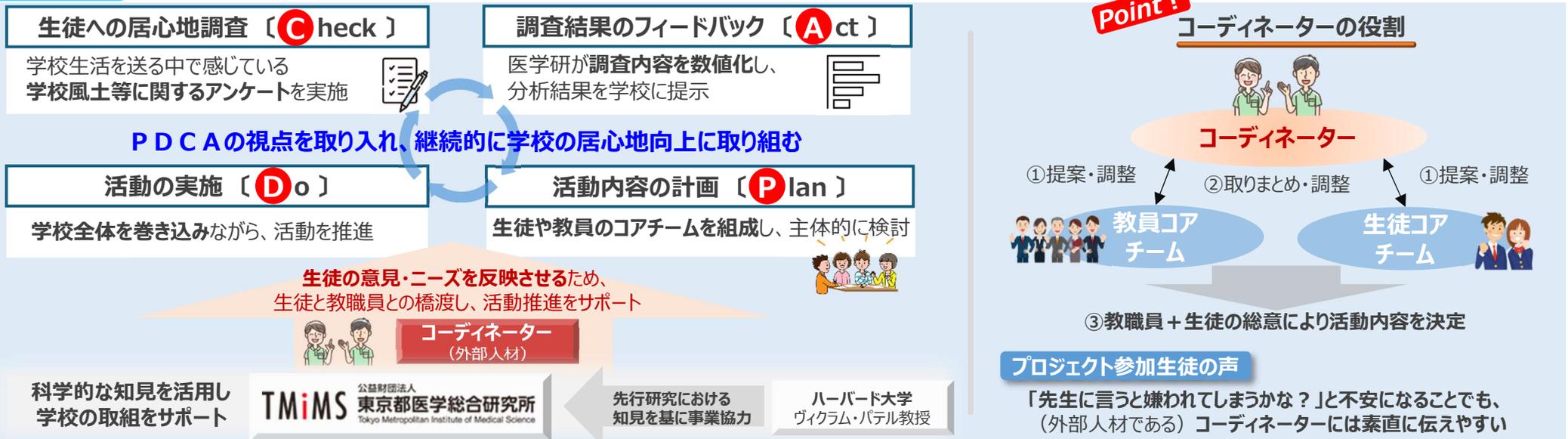
- 年々増加するニーズに応えるため、**フリースクール等の利用者を支援**
- 多様な学びの調査研究等により得られた知見を踏まえ、**フリースクール等の質を向上**

■ 保護者への支援の充実・強化

- **保護者同士の交流**や相談の場の提供、**支援情報の発信**等、サポートを充実
- **低年齢の不登校の子供を持つ保護者**に向けた**啓発**を強化

学校風土を改善し、子供が直面する様々な問題の発生を未然に防ぐ仕組みを構築

概要



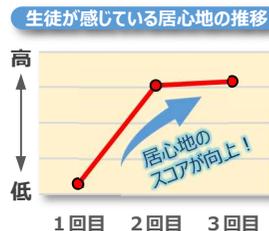
これまでの主な取組

取組実施校 都立学校：小台橋高等学校、立川国際中等教育学校、井草高等学校、小平高等学校、石神井高等学校
区市町村立学校：(世田谷区立) 駒沢中学校、玉川中学校 (調布市立) 第八中学校、第四中学校

モデル校における取組

PD 都立小台橋高等学校及び立川国際中等教育学校では、2024年度から取組を開始し、学校の居心地をより良くするための活動を校内で推進

AC 定期的実施している学校風土等に関するアンケート調査では、生徒が感じている居心地が着実に向上



生徒の意見を基に、生徒同士が気軽に ▲ 交流できる居場所を創出 (小台橋高等学校)

コーディネーター研修の実施

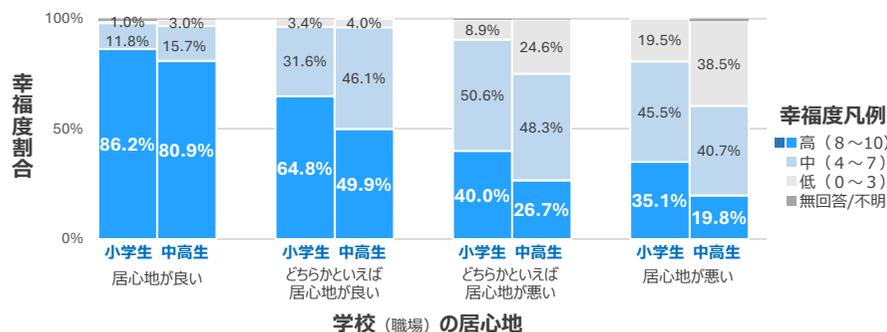
- ✓ 各学校に派遣するコーディネーターに対して研修を実施
 - ・ 生徒の主体的な意見を引き出す工夫や教職員との調整における留意点等に関する講義・グループワーク
 - ・ ヴィクラム・パテル教授との意見交換



▲ 研修の様子

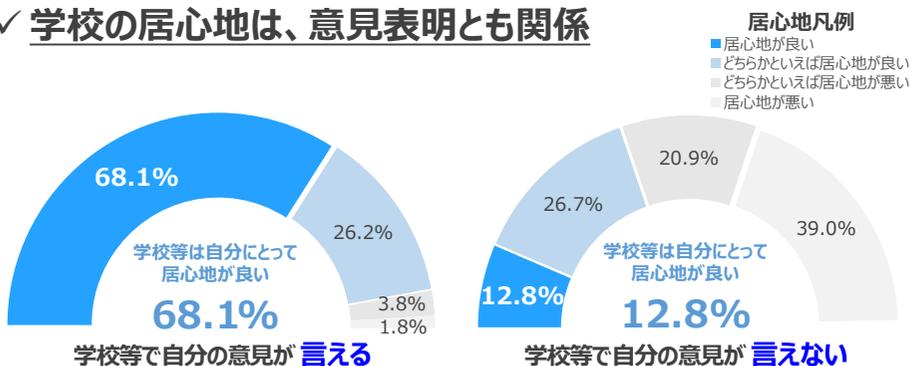
課題分析

✓ 学校の居心地と幸福度との間に、高い相関関係が存在



(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2024年調査のクロス分析を基に作成

✓ 学校の居心地は、意見表明とも関係



(調査対象：小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳)

(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2024年調査のクロス分析を基に作成

✓ 小学校においても不登校の子供が年々増加 (P28参照)

有識者の声

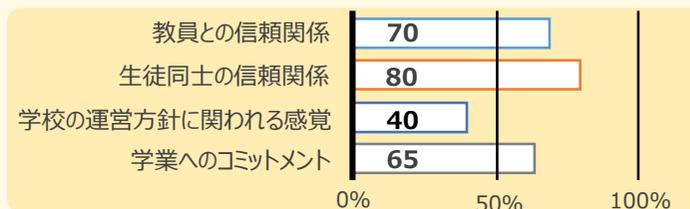
- 学校で安心して意見表明や相談ができるなど、**学校の風土を改善していくことが必要**
- 小学生は、1年生から6年生まで、心身の成長・発達の差が大きいいため、**中高生とは異なる仕組みで取組を進める工夫が必要**

政策強化の方向

区市町村教育委員会等と連携し、高等学校・中学校における取組を推進するとともに、**小学校での取組を実践フェーズに移し、効果的なスキームを構築**

■ 高等学校・中学校での取組を推進

- 都教育委員会や区市町村教育委員会と連携し、取組を推進
- 東京都医学総合研究所の知見を活用し、**取組の有効性を科学的に検証**
- 取り組む上での要点や実施校での活動、成果等、**プロジェクトの実践内容や効果を分かりやすく発信**



学校の居心地を見える化し、効果を検証（見える化のイメージ）



取組の成果等を発信

■ 小学校での実践を通じて、取組のスキームを構築

- 2025年度に開発予定の“小学生向け居心地調査”を活用し、**取組を実践**
- 小学校での実践を通じて、児童の意見やニーズを汲み取るための手法等を検証し、**小学校版の事業スキームを検討**

育ちを支える「つながり」の創出



子供政策連携室・政策企画局・総務局・デジタルサービス局・生活文化局・都民安全総合対策本部・住宅政策本部・福祉局・保健医療局・産業労働局・教育庁 等

- 子供や子育て家庭が抱える不安や悩み、困難は多岐にわたり、その要因も複雑化・複合化
- 子供が伸び伸びと健やかに育つためには、孤独や孤立に陥ることによる不安や悩みの深刻化を予防することが重要
- 日常的な不安や悩み、困難に寄り添い、子供の育ちを支える環境を強化していくため、相談・支援に関する取組を総合的に推進

これまでの主な取組

子育てのつながり創出

リアル&バーチャルの視点から、孤独・孤立による不安や悩みを予防・解消

リアル ファミリー・アテンダント (区市町村補助事業)

- ✓ アウトリーチ型で子育て家庭をサポート
 - ・ 乳児がいる家庭などを訪問
- ✓ 子育て家庭の身近なアテンダント
 - ・ 日々の子育ての悩みのお話相手



【2024年度】6自治体実施

デジタル 気軽なチャット相談 “ギョツとチャット”

- ✓ 子供や保護者が気軽にチャットで相談できるサービス “ギョツとチャット” を2025年1月に先行稼働

【累計相談件数】

2,425件 (2025年6月30日時点)



ヤングケアラーを支える

子供・若者が直面する実情に寄り添ったきめ細かい支援を展開

気付く

- ✓ 専用HP「ヤングケアラーのひろば」を軸とした情報発信
 - ・ 正しい知識の浸透、社会的認知度向上 等



つなぐ

- ✓ 区市町村の連携強化
 - ・ コーディネーターの育成
 - ・ 連絡会等の運営 等

支援する
見守る

- ✓ 多面的かつ切れ目のないサポートの充実
 - ・ 学校内外の居場所づくり
 - ・ 訪問支援の促進 等



ユースヘルスケア

思春期特有の健康上の悩みを解消し、ユースの健康を増進

- ✓ 専用HP「TOKYO YOUTH HEALTHCARE」を軸とした情報発信
 - ・ ユースの意見を反映したコンテンツ拡充 等

【累計PV数】約108万PV (2025年6月30日時点)



- ✓ 相談窓口「とうきょう若者ヘルスサポート (わかさぼ)」の運営



日本語を母語としない子供を支援

地域や学校への適応、心理・生活面を支援

- ✓ 子供目線の居場所づくりや相談体制の構築
- ✓ 安心して過ごすことができる居場所「多文化キッズサロン」の設置支援
- ✓ 学校での日本語指導・支援の充実



課題分析

✓「ギョツとチャット」の子供や保護者からの相談内容は、学校生活、人間関係、家庭環境、子育てなど多岐にわたる

小学生段階（12歳以下）		中高生段階（13歳～18歳）		保護者	
1位	学校生活 270件	1位	心身の健康 301件	1位	子育て 183件
2位	人間関係 191件	2位	学校生活 142件	2位	心身の健康 45件
3位	家庭環境 141件	3位	人間関係 92件	3位	家庭環境 39件
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
6位	恋愛 60件	6位	恋愛 37件	6位	漠然とした悩み等 9件
7位	雑談 47件	7位	漠然とした悩み等 26件	7位	学校生活 8件
8位	漠然とした悩み等 30件	8位	性 14件	8位	金銭関係 6件
9位	性格 26件	9位	性格 7件	9位	雑談 5件

「子供・子育てメンター“ギョツとチャット”相談実績（2025年6月30日時点）」

- 相談環境にAIの活用を求める子供の声も存在

子供の声

- 人に言えないもやもやがいっぱいあるけど、AIだと気軽に相談しやすい
- より気軽に相談できるように、AIを使った相談状況管理などをする

（東京都子供政策連携室「出前授業」（2023年度・2024年度実施分）より）

✓ 高齢・障害・生活福祉分野等の機関で、ヤングケアラーについての認知度や、連携に関する認識・知識が不足

ヤングケアラー支援の関係機関についての認知度	児童福祉	教育機関	高齢者福祉	障害福祉	保健	生活福祉	合計
連携が必要な施設について知っている	71	49	31	25	76	44	31
一部のみ知っている/ 関係機関として知らなかった分野がある	24	47	62	59	24	49	53

（資料）東京都子供政策連携室「ヤングケアラー支援関係機関における家庭への支援等に関する調査」（2025年3月公表）を基に作成

✓ 日本語指導が必要な児童生徒は増加（P45参照）

政策強化の方向

子供や子育て家庭が抱える多様な不安や悩みに寄り添い、相談しやすい環境づくりなどによる重層的な支援等を展開し、子供の健やかな育ちを支える「つながり」を創出



■ AIも効果的に活用し、不安や悩みを気軽に相談できる環境づくりを強化

- ギョツとチャットを相談支援の中核的な役割を担う窓口として、各局相談窓口との連携を強化
- AI活用など相談サービスの更なる充実に加え、ギョツとチャットをより身近に感じてもらうための効果的な広報活動を展開

■ 様々な不安や悩み、困難を重層的に支援

- 地域の特徴を生かし、子育て家庭への支援力を強化
- ヤングケアラーへの支援に向け、関係機関の意識向上・連携強化等を推進
- 困りごとを抱える日本語を母語としない子供・保護者に寄り添い、学校・行政・民間団体等とも連携し、課題に取り組む体制を整備

子供の未来を育む「体験活動・遊び」の推進

子供政策連携室及び各局

- 子供の健やかな成長を確かなものにするためには、多様な体験にチャレンジできる環境を創出することが重要
- 多様な体験を土台とした子供の成長を支える取組を強化していくため、「体験活動」と「遊び」を一体的に推進

概要

日本の技術や仕事、職業、ボランティアなどの体験や見学をしたい



国際的なことに関連した活動が増えたらよいと思う

新しい遊びをもっとつくってほしい

これまでの主な取組

子供の未来を育む「体験活動」の推進

学校内外で様々な体験活動を創出

- ✓ 児童・生徒の豊かな心の育成につながる体験活動の機会を提供
【2024年度】区市町村立1,745校、都立251校、私立94校実施
- ✓ 子供の身近な地域である区市町村が実施する体験活動を後押し

子供の興味・関心を引き出し、成長を支える取組を推進

- ✓ 庁内各局で実施している体験活動をこどもホームページで発信
- ✓ 体験活動の創出やエビデンスベースの取組を推進



子供の笑顔につながる「遊び」の推進

子供の意見を反映した遊び場づくりの推進

- ✓ 子供の意見を反映した遊び場づくりに取り組む区市町村を支援
【～2025年度】22自治体
- ✓ 質の高い「遊び」の環境づくりに取り組む区市町村を支援
【2024年度】12自治体

子供の「遊び」の大切さの発信・地域社会の理解促進

- ✓ 特設SNSを活用して子供の遊びを発信
- ✓ 子供の遊びを語る動画を公開



地域の特色を生かした遊びの機会の創出と人材の育成

- ✓ 子供が身近な場所で多様な体験ができる遊びイベントを実施
【2024年度】11プロジェクト実施（延べ9,223人参加）
- ✓ 子供が信頼を寄せる存在であるプレーリーダーを育成

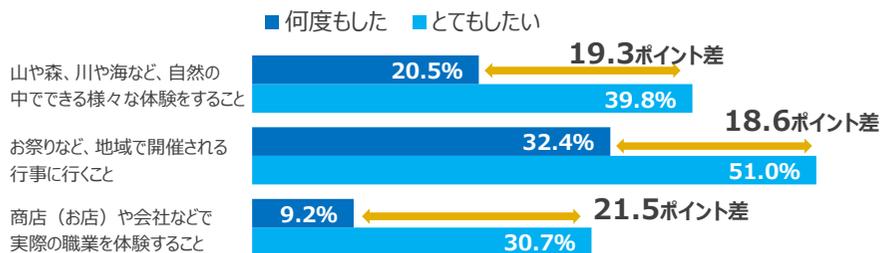
「遊び」を通じた多様な体験機会の充実

- ✓ 子供の視点を取り入れたまちづくりの推進
- ✓ 都立公園に誰もが遊べる児童遊具広場を整備
- ✓ 都立特別支援学校で移動式冒険遊び場を実施

課題分析

✓ 身近な場所で様々な体験に触れる機会が必要

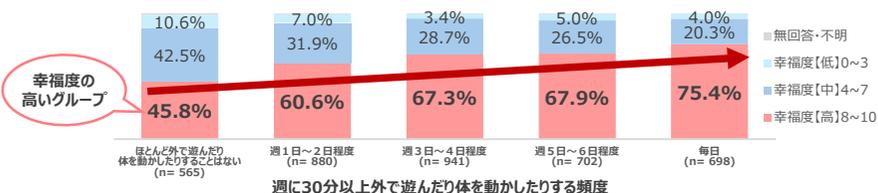
1年間の学校外での体験活動について、何度もした／とてもしたいの差が大きい項目



（資料）独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査（令和4年度調査）」を基に作成（回答者は、全国の公立中学校2年生、公立全日制高等学校2年生）

✓ 子供が外で遊ぶきっかけをつくるのが重要

● 外で遊んだり体を動かしたりする日が多い子供は、幸福度が高い傾向



（調査対象：小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳）
（資料）東京都子供政策連携室「とくきょうこどもアンケート」J2024年調査のクロス分析を基に作成

✓ 遊び・体験を通じて親子で過ごす時間の創出が重要

小学生の親子が一緒に過ごす1日あたりの平均時間

	平日（平均時間）			休日（平均時間）		
	2012年	2025年	増減	2012年	2025年	増減
全体	3時間00分	2時間19分	▲41分	5時間29分	4時間19分	▲70分
低学年	3時間05分	2時間27分	▲38分	5時間32分	4時間34分	▲58分
高学年	2時間56分	2時間12分	▲44分	5時間26分	4時間05分	▲81分

（資料）シチズン時計「親子のふれあい時間」調査－小学生の子どもを持つ共働き夫婦400組対象－を基に作成（n=400（低学年、高学年各200名））

政策強化の方向

多面的な取組により、全ての子供が多様な体験にチャレンジできる環境づくりを推進

■ 学校内外で様々な「体験活動」・「遊び」を創出

- 子供が他者との交流を通じ、積極性や協調性、他者理解などの豊かな心を育む体験活動の機会を学校内外において充実
- 子供の声を反映した体験活動や地域と関わりながら遊ぶことができる機会などの創出、プレーリーダーの育成等に取り組む区市町村を強力にサポート
- こどもスマイルムーブメント参画企業・団体等との連携により、中高生のニーズに応じたリアルな職業体験機会を提供

■ 「体験活動」・「遊び」の戦略的な発信

- 各局や区市町村が企画・実施する子供目線に立った多様な「体験活動」や「遊び」の情報を取りまとめ、一元的に子供や保護者等に発信



■ 子供の意見を反映した遊び場づくりの推進

- 子供の意見を反映し地域資源が活用された多種多様な遊び場整備の好事例やその実践に関するノウハウを広域的に発信するなど、区市町村の遊び場づくりを幅広く支援

子供を事故から守る環境づくり



子供政策連携室・生活文化局・都市整備局・住宅政策本部・福祉局・保健医療局・産業労働局・建設局・教育庁・警視庁・東京消防庁

「防げる事故」を確実に防ぎ、子供が安心してチャレンジできる社会を実現

概要

- ✓ 事故が起きないように、見守るだけでは限界がある
- ✓ 「変えられるもの」を「変える」ことで事故を予防できる

例えば… 川で遊ぶときの安全対策



“変えられるものを変える”の視点で事故予防のサイクルを回していく



これまでの主な取組

データ収集

- ✓ 2025年3月、子供の事故情報を一元的に集約したオープンデータベースを開設



子供の事故情報データベース TOPページ

調査・研究、予防策の開発

- ✓ 「転落」「睡眠環境における事故」をテーマに、エビデンスに基づいた予防策(提言)を取りまとめ

2023年度 転落



2024年度 睡眠環境における事故



- ✓ データ解析や子供の行動観察等により、事故につながる子供の行動特性を分析する基礎研究を推進

普及啓発

- ✓ 「東京都子どもセーフティプロジェクト」を開始し、予防策等を戦略的に発信



- ✓ 子供の成長・発達段階に応じた予防策等を紹介する「子供の事故予防ハンドブック」を各局と連携して制作・配布



課題分析

- ✓ **事故情報やデータの利活用を進め、子供にとって安全安心な製品・環境づくりを産官学民一体で取り組むことが必要**

有識者の声

- データベースの開設により、事故の概況や詳細を調べる上で、利便性が格段に高まった。事故状況の把握やリスクアセスメントなど、**研究・製品開発への活用が望まれる**
- 少子化等を背景に、子供向け製品は市場規模が縮小傾向にあるため、**子供の傷害予防は、企業との共同研究が成立しづらくなってきている**

保護者の声

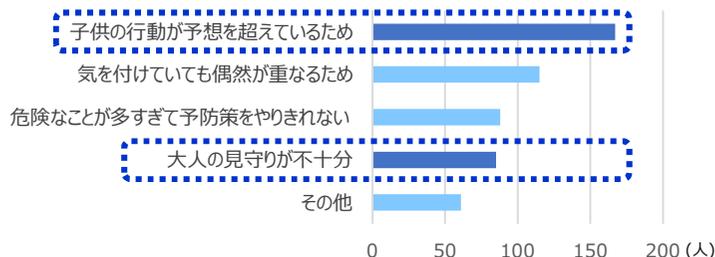
- 事故情報の検索機能以外にも、年齢・性別、時季ごとの注意喚起情報など、**保護者・子供向けのコンテンツ**を制作してほしい

(東京都子供政策連携室 子供の事故情報データベースに関するユーザーヒアリング (2025年度実施) での発言に基づき記載)

- ✓ **子供の行動特性等のエビデンスに基づく、事故が起きにくい環境づくりが重要**

- 多くの保護者は、事故が減らない理由として「子供の行動が予想を超えているため」と回答
- 事故防止では「大人の見守り」が重要と考える保護者が依然として多い

Q.家庭内の事故による子供の救急搬送件数が減らない理由は何だと思われますか。



(資料) 東京都子供政策連携室「保護者の意見聴取報告書」(2024年3月)を基に作成

政策強化の方向

産官学連携による予防策の開発や戦略的な情報発信等により、事故予防のサイクルを効果的に回し、**子供の事故が起きにくい環境づくり**を推進

■ 子供の事故情報データベースの利活用を促進

- **事業者・研究者による利活用促進**につながる効果的な普及啓発を推進
- **保護者等の利活用促進**に向け、データを利活用した分かりやすい情報発信など、親しみやすい**普及啓発**を実施

■ 産官学の連携促進による

「子供の事故が起きにくい環境づくり」の推進

- 産学連携による**調査・研究**や**安全安心な製品開発**等を促進
- 産学連携による**取組の成果を保護者等に啓発**することで、事故予防のサイクルを効果的に回し、事故の起きにくい環境づくりを推進



事故予防のサイクル (再掲)

■ エビデンス・ベースの予防策等の戦略的な発信

- 社会的なトピック等を踏まえ事故テーマを選定し、**エビデンス・ベースの具体的な予防策**を取りまとめ
- 時宜を捉え、取組の成果を戦略的に発信し、社会全体で**気運を醸成**

思春期の「メンタルヘルス」増進

- 思春期のメンタルヘルスが世界的に深刻な課題となる中、日本においては自殺率が高く、子供たちにとって**重大な脅威**
- 思春期におけるメンタルヘルスの増進は、**成人期において充実した生活を送るための大切な基盤**
- **未来を担う子供たちの誰もが将来に希望を抱くことのできる社会が実現**できるよう、メンタルヘルス対策を強化していく

○ 思春期のメンタルヘルスは世界的にも深刻な課題

WHO（2024年10月掲載記事）

- 世界的には**10歳～19歳の7人に1人が精神疾患を経験**
- **自殺は、15歳～29歳の死因の第3位**
- **思春期のメンタルヘルス状態に対処しないと、その影響は成人期まで及び、身体的及び精神的健康が損なわれ、成人として充実した生活を送る機会が制限される**

(資料) World Health Organization Webサイト「Mental health of adolescents」を基に作成

○ 世界の中でも日本の青少年の自殺率は高い

子供の精神的幸福度



(資料) UNICEF「Child Well-Being in an Unpredictable World Innocenti Report Card 19」を基に作成

10歳～19歳の自殺による死亡率

【G7各国】	国(年)	死亡率
日本	2021	7.0
アメリカ	2021	6.8
カナダ	2022	4.3
イギリス	2020	2.6
ドイツ	2020	2.4
フランス	2020	2.1
イタリア	2020	1.3

※死亡率は、人口10万人当たりの死亡数
(資料) 厚生労働省「令和6年度自殺対策白書」を基に作成

○ 思春期のメンタルヘルス対策の重要性が増している

子供の幸福度

学年が上がるにつれて、幸福度は低下傾向

今の自分は幸せか

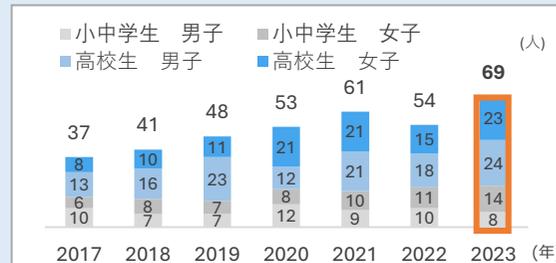
東京都

小学生（小3・小5）	70.8%
中学生（中2）	61.4%
高校生（17歳）	54.5%

(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

自殺者数の推移

東京都



(資料) 厚生労働省自殺統計原票データ特別集計を基に作成

○ 思春期等のメンタルヘルスの問題は、成人期にも影響

メンタルヘルスに関する研究事例

(オーストラリア)

- **周産期に抑うつ（うつ症状）を経験する妊婦の多く（85%）は、既に妊娠前の思春期や成人期早期にメンタルヘルスの問題を体験**
- **妊娠前の思春期や成人期早期にメンタルヘルス問題を抱えていた女子は、そうでない女子に比べ8.36倍も周産期にうつ症状を経験しやすい**

→妊娠前の思春期からのメンタルヘルス支援や予防が重要

(資料) 医学誌「The Lancet」(Volume 386 (2015)) 掲載論文「Prediction of perinatal depression from adolescence and before conception (VIHCS): 20-year prospective cohort study」(Prof George C Patton MD) を基に作成

政策強化の方向

■ 思春期における心身の健康づくりを推進

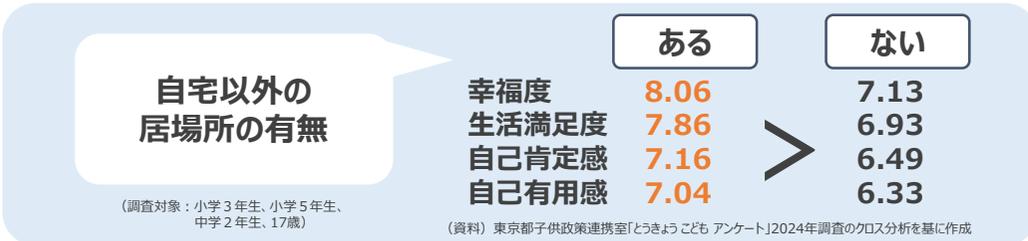
■ 子供の心の不調に関する気づきと見守りを促進

■ 子供の日常の過ごし方等を把握し、思春期のメンタルヘルスへの影響等を分析

多様な「子供の居場所」創出

- 子供にとって、ほっとできる居場所、安心できる居場所は、幸福度や自己肯定感等を高める上で重要な役割を果たしていく
- 地域のつながりの希薄化、核家族化の進展等により、子供が置かれている環境は様々
- 一人ひとりの置かれている環境に寄り添い、子供の居場所を創出し、子供のウェルビーイングを高めていく

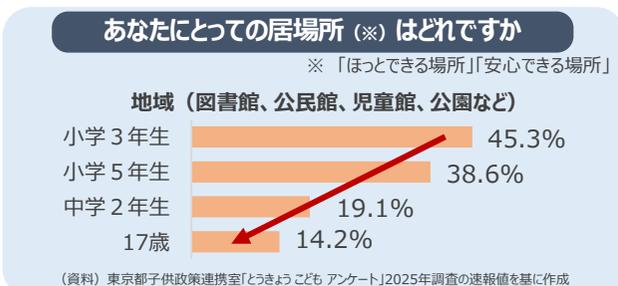
- 自宅以外の居場所がある子供は、幸福度や自己肯定感などが高い傾向



- これまで、都では、子供の多様なニーズを踏まえ、区市町村等と連携し、子供の居場所を様々な形で創出



- 中高生にとっては地域の居場所が課題



【都内の子供の主な地域の居場所(施設数)】

小学生	児童館(585)、学童クラブ(1,981) など
中高生	青少年教育施設/ユースセンター(28程度) など

- 中高生の居場所に対するニーズは様々

【様々な居場所の中高生の声】

- ・ ここにくるのはお金を使わずに交流できるから(中学生@ユースセンター)
- ・ 児童館は遊ぶものが幼児向けが多く、中学生になったら、つまらなくなった(中学生@児童館)
- ・ 中高生だけの場がない(高校生@プレーパーク)
- ・ ここでは子供の意見が取り入れられる。こういう所が広まってほしい(高校生@ユースセンター)

(資料) 東京都子供政策連携室「子供の居場所で聴いた声」(2023年度・2024年度実施分)を基に記載

(左資料) 東京都福祉局「令和5年度東京の児童館実施状況」及び「令和6年度東京の学童クラブ事業実施状況」並びに東京都教育委員会「令和6年度教育行政基礎データ」を基に記載

- 海外では、ユース向けの居場所づくりに取り組む都市も存在

	ユースの居場所(施設数)	15歳~18歳の人口	1施設当たりの中高生世代人数(試算)※
ベルリン	・ユースセンター(413)	約10万人	約240人に1施設
東京	・中高生プログラムのある児童館(351) ・青少年教育施設/ユースセンター(28程度)	約42万人	約1,100人に1施設

※施設利用対象者の範囲にかかわらず、中高生世代の人数で算出

(資料) 東京都福祉局「令和5年度東京の児童館実施状況」及び東京都教育委員会「令和6年度教育行政基礎データ」を基に記載

ユースの放課後の過ごし方(ベルリン)

ベルリンではユース世代の子供たちが、自分たちの意見や関心が反映されたユースセンターで、放課後に芸術やスポーツを自由に楽しんでいる。



政策強化の方向

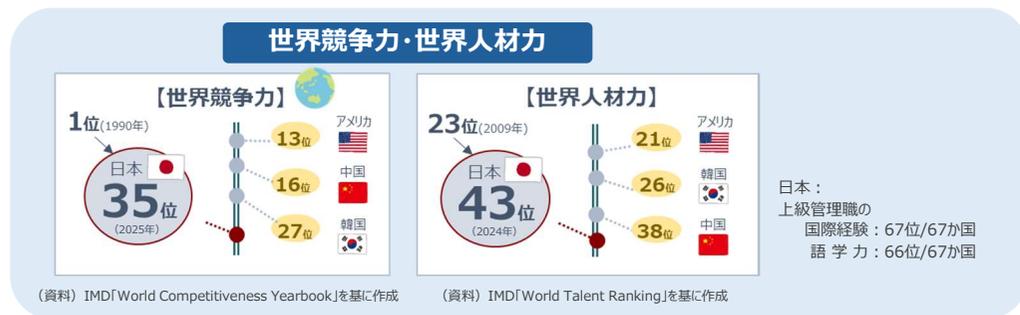
■ 学齢期をはじめとした子供の多様なニーズを踏まえた居場所を創出

■ 区市町村等と連携し、中高生の地域における日常的な居場所づくりを強化

グローバルな感覚を育む機会の創出

- **グローバル化**や**技術革新**等により**将来予測が困難な時代**が到来し、日本の**国際競争力**が課題となる中、子供たちが**将来、世界を舞台にした活躍へとチャレンジ**できるよう、その**意欲を育む**とともに、**挑戦を後押し**することが必要
- 未来を担う子供が**自らの可能性に挑戦し自己実現**を図れるよう、**早くから多文化に親しみ、豊かな国際感覚を育む機会**を創出していく

○ 日本の国際競争力・人材競争力が低下する中、国際経験等が弱いとの指摘

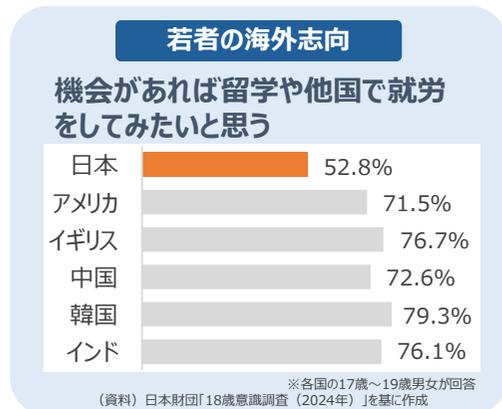


○ 幼児期も含め早期からの多様性を体感できる機会や海外での様々な活動が、子供の成長に大きな効果

- 留学をはじめ、海外での様々な活動を通じた、**異文化理解**やコンフォートゾーンから抜け出すなどの**国際経験**が、個性の伸長や人格の形成など若者の**多様な成長に極めて大きな教育効果**がある。
- **中学校や高等学校等の早い段階**から、留学や海外研修、対面やオンラインでの国際交流等、**多様な国際経験の機会**に誰もが**アクセス**できると良い。
- 子供や若者たちが**文化の壁を作らず海外に親しんでいくためには、幼児期も含め早期から世界の多様性等を体感できる機会**があることが望ましい。

(資料) 文部科学省「Global×Innovation 人材育成フォーラム 最終まとめ」(2025年6月)を基に作成

○ 日本の若者の海外志向は他国より低い



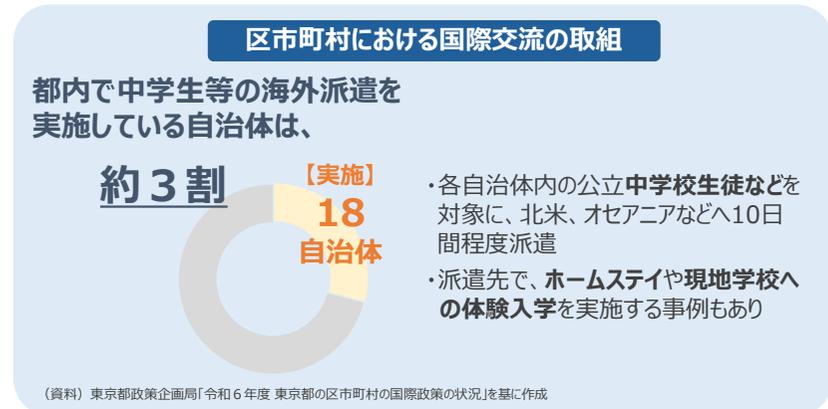
○ 早期から留学等の希望があるものの、実際に留学体験がある子供は一部

子供の留学等の希望と留学体験のギャップ

	「留学・他国で働きたい」希望あり	希望ありの内、留学体験あり
小3	49.0%	0.9%
小5	45.4%	2.9%
中2	52.3%	4.1%
17歳	58.4%	16.1%

(資料) 東京都子供政策連携室「ときょうこども アンケート」2024年調査のクロス分析を基に作成

○ 国際交流に関する海外派遣の取組は、自治体ごとに差がある



政策強化の方向

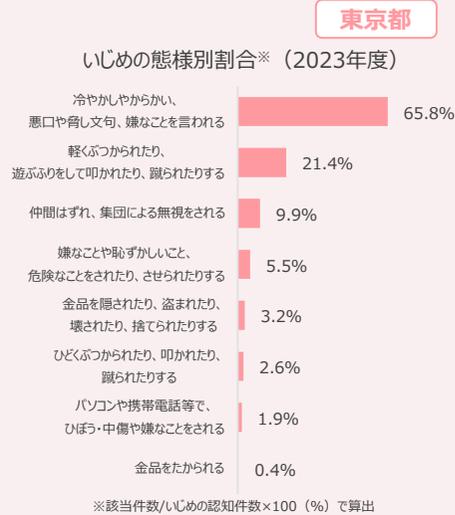
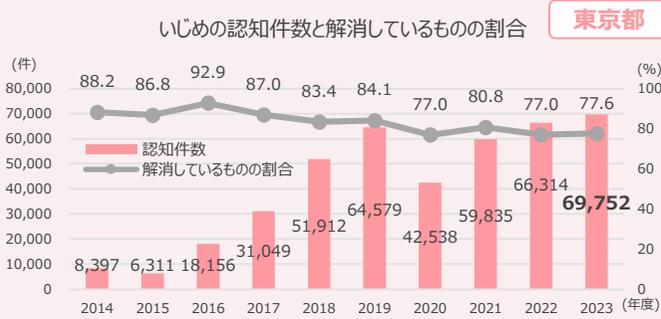
- **学校内外で子供の国際感覚を育む取組を幼少期から高校段階までシームレスに展開**

Ⅱ チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化

Ⅱ－２ 都庁全体で取り組む子供政策の強化の方向

- 都が総力を挙げて取り組む子供政策を、4つの柱に分けて整理しています
 - 政策の柱1 誰一人取り残さない視点から、子供へのサポートを強化
 - 政策の柱2 子育て家庭に寄り添い、子供の育ちを支える環境を充実
 - 政策の柱3 「東京型教育モデル」により、教育の質を向上
 - 政策の柱4 多様な主体と連携し、子供の笑顔を育むアクションを展開
- それぞれの柱について、子供・子育て家庭を取り巻く状況や子供の意見などを分析し、今後の政策強化の方向を整理しています

いじめの認知件数及び重大事態の発生件数は増加傾向、態様は様々

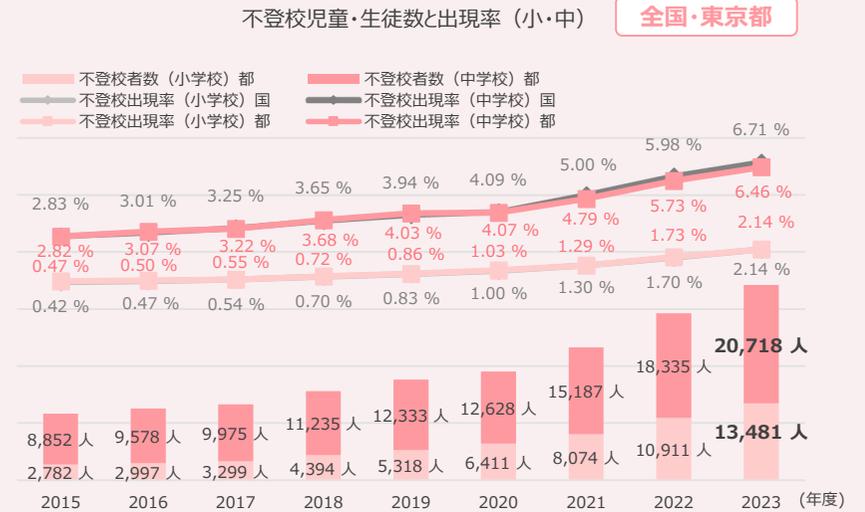


いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数



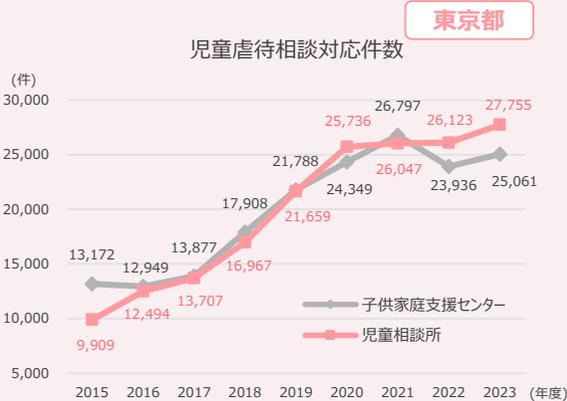
(資料) 東京都教育委員会「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に作成

不登校の小中学生は過去最多を更新



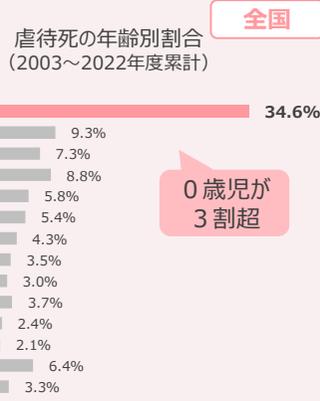
(資料) 文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に作成

児童虐待相談の対応件数は増加傾向



※2020年度以降、特別区児童相談所分を含む
 ※2022年度から、虐待非該当を含まない等集計条件を変更

(資料) 厚生労働省「福祉行政報告例」を基に作成



※小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない

(資料) こども家庭庁「こども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第20次報告)」(2024年9月)を基に作成

児童・生徒の自殺者数は増加傾向、要因は多様



(資料) 厚生労働省自殺統計原票データ特別集計を基に作成

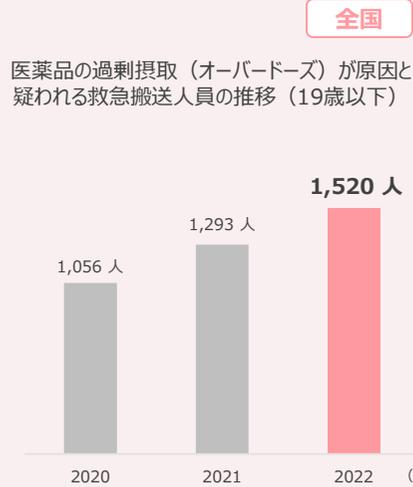
児童・生徒の自殺の原因・動機上位10項目 (2024年) (全国)

1	病気の悩み・影響 (その他の精神疾患)	70件
2	学業不振	65件
3	病気の悩み・影響 (うつ病)	61件
4	学友との不和 (いじめ以外)	60件
5	進路に関する悩み (入試以外)	51件
6	親子関係の不和	38件
7	家族からのしつけ・叱責	34件
8	入試に関する悩み	33件
9	失恋	30件
10	孤独感	14件

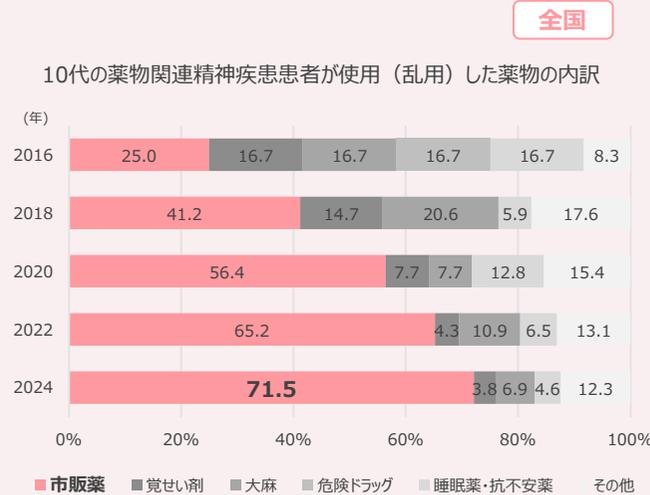
※「その他」を除く

(資料) 警察庁「令和6年中における自殺の状況」を基に作成

医薬品の過剰摂取（オーバードーズ）が増加



（資料）厚生労働省「医薬品の過剰摂取が原因と疑われる救急搬送人員の調査結果」（2023年12月）を基に作成



（資料）国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所「全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査（2024年）」を基に作成

子供の声

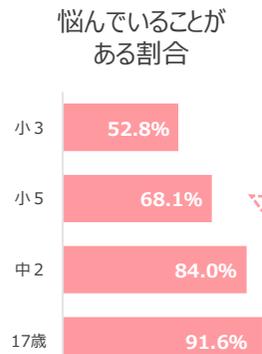
【悩みの相談について】

- ◆ **自分の抱えているものを全部話したい**
（小学生@放課後学童クラブ）
- ◆ **自分にとって信頼できる人だったら**
相談できる（中学生@児童館）
- ◆ **他人じゃないと話せない。身内だと**
話した後気まずい（中学生@子供食堂）
- ◆ **個人が特定されないか怖いと思って**
やめてしまう（高校生@学習支援拠点）

東京都子供政策連携室「子供の居場所で聴いた声」（2024年度実施分）を基に記載

>>> 子供の悩み

◆ 学年が上がるにつれて悩みを抱える割合は高くなり、**悩みの内容は様々**



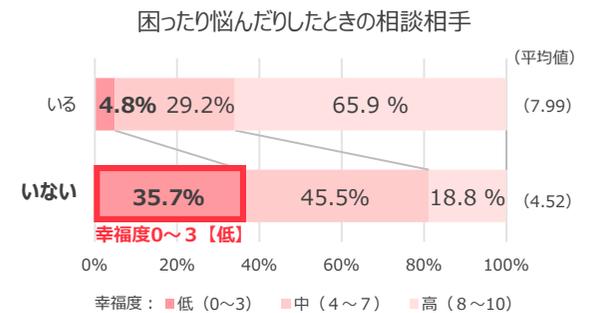
※「あなたは今、悩んでいることがありますか。」という質問に対して、「勉強に関すること」～「その他」（「悩みはない」以外）を選択した割合（「無回答/不明」を除く）

【今悩んでいること・上位5項目（学年別）】※複数回答

学年	勉強に関すること	将来に関すること	（戦争や事件などの）ニュースに関すること	友達に関すること	お金に関すること
小3	20.9%	18.4%	15.9%	13.2%	11.5%
小5	35.2%	25.4%	19.3%	（戦争や事件などの）ニュースに関すること 19.0%	塾・習い事に関すること 18.2%
中2	63.0%	37.7%	36.0%	30.1%	23.2%
17歳	70.4%	55.8%	40.6%	26.9%	26.2%

（資料）東京都子供政策連携室「とうきょう子ども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

◆ 困ったり悩んだりしたときの**相談相手がない子供**は、相談相手がいる子供と比べて、**幸福度が低い傾向**がある



※ 調査対象：小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳
 ※ 質問は「あなたが困ったり悩んだりしたとき、相談する相手はだれですか。」（複数回答）
 「いる」は「友達や先輩」～「その他」（「相談できる人はいない」以外）を選択した合計、「いない」は「相談できる人はいない」を選択した合計（「無回答/不明」を除く）
 ※ 幸福度は、「あなたは、次のこと（今の自分は幸せだ）が、どれくらいあてはまりますか。」という質問に対して、「0（全くあてはまらない）」～「10（とてもあてはまる）」の11段階で回答（「無回答/不明」を除く）

（資料）東京都子供政策連携室「とうきょう子ども アンケート」2024年調査のクロス分析を基に作成

子育て層の約9割が住んでいる地域を肯定的に評価

東京都

住んでいる地域が子育てに良い場所であると思うと回答した割合



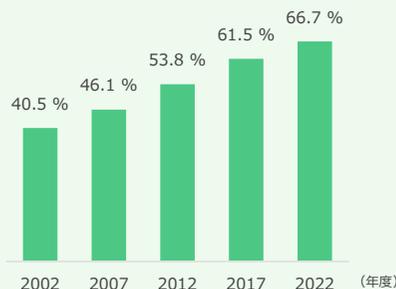
※そう思う+どちらかといえばそう思うの割合
※調査対象：3歳児・小学3年生・小学5年生・中学2年生・17歳の子供の保護者

(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」を基に作成 (2025年の数値は速報値)

共働き世帯は増加

東京都

「両親のいる世帯」に占める「共働き世帯」の割合

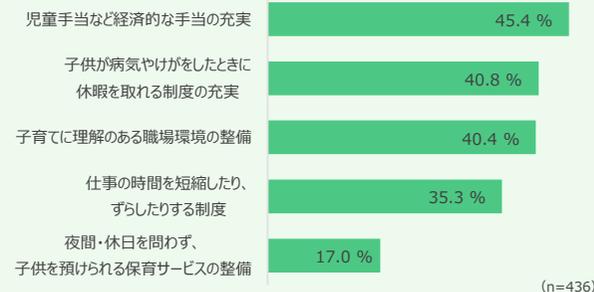


(資料) 東京都福祉局「東京都福祉保健基礎調査 (平成19年度、平成24年度、令和4年度)」を基に作成

ひとり親家庭への支援ニーズは多様

東京都

子育てをしやすくするために必要なもの (ひとり親世帯の回答 上位5項目) ※複数回答



(資料) 東京都福祉局「令和4年度東京都福祉保健基礎調査」を基に作成 (n=436)

保育の待機児童はほぼ解消、保育に関する多様なニーズが存在

東京都

都内の保育所等利用待機児童数の推移



(資料) 東京都福祉局「東京都子供・子育て支援総合計画 (第3期)」を基に作成

東京都

保育サービスの実施状況 (障害児保育)



(資料) 東京都福祉局「東京都子供・子育て支援総合計画 (第2期)」及び「東京都子供・子育て支援総合計画 (第3期)」を基に作成

東京都

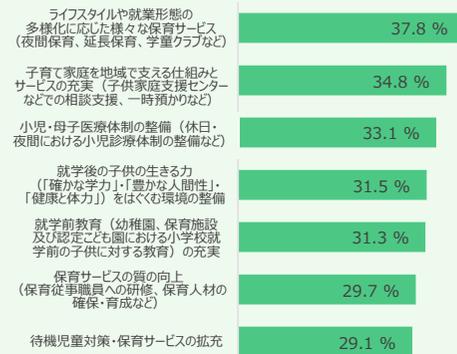
一時預かりの利用児童数



(資料) 東京都福祉局「東京都子供・子育て支援総合計画 (第2期)」及び「東京都子供・子育て支援総合計画 (第3期)」を基に作成

東京都

子供・子育て支援の施策として充実してほしいもの



(資料) 東京都子供政策連携室「令和7年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成 (※子供がいる人の回答 (n=3,998))

学童クラブに対するニーズは高く、小学生の朝の居場所に対する利用希望は一定程度存在

東京都

都内公立小学校数と学童クラブ数の推移



学童クラブの整備は着実に進行

(資料) 東京都福祉局「令和6年度東京の学童クラブ事業実施状況」を基に作成

東京都

都内学童クラブ登録児童数と待機児童数の推移

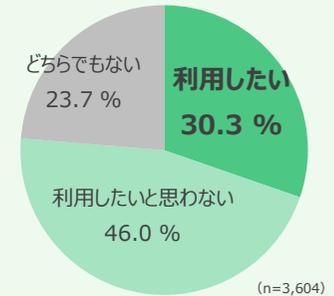


待機児童は依然として存在

(資料) 東京都福祉局「令和6年度東京の学童クラブ事業実施状況」を基に作成

全国

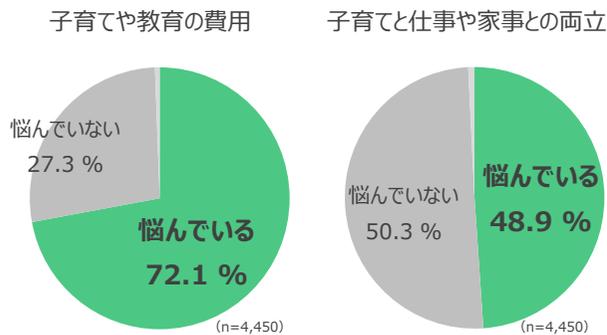
学校がある日の朝（始業前）の自宅以外の居場所の利用希望



※ 学校がある日の朝の主な居場所が「自宅」であると回答した保護者の回答
 ※ 「利用したい」は「とても利用したい」と「利用したいと思う」の合計、「利用したいと思わない」は「利用したいと思わない」と「全く利用したいと思わない」の合計
 (資料) こども家庭庁「小学校の長期休業中におけるこどもの居場所に関する調査研究報告書」(2025年3月)を基に作成

>>> 子育て世代の悩みや不安

◆ 多くの保護者が、子育てや教育の費用に関する悩み、子育てと仕事や家事の両立に関する悩みを抱えている



※ 調査対象：3歳児、小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳の子供の保護者
 ※ 「子育ての悩みに関してそれぞれ、次のことがどれくらいあてはまりますか。」という質問に対して、「悩んでいる」は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、「悩んでいない」は「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

◆ 子育ての相談相手の不足に悩んでいる保護者は、悩んでいない保護者と比べて、精神的ゆとりを感じる割合や、子育てを楽しんでいる割合が低い傾向がある

子育ての相談相手の不足について※1

	悩んでいる (平均値)	悩んでいない (平均値)
精神的ゆとり※2 「0~10」の11段階で回答	3.94	5.42
子育てを楽しんでいる※3 「0~10」の11段階で回答	6.50	7.75

精神的ゆとり※2 「0~10」の11段階で回答

子育てを楽しんでいる※3 「0~10」の11段階で回答

※ 調査対象：3歳児、小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳の子供保護者
 ※ 1 「子育ての悩みに関してそれぞれ、次のこと（子育ての相談相手の不足）がどれくらいあてはまりますか。」という質問に対して、「悩んでいる」は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、「悩んでいない」は「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計
 ※ 2 「現在、あなたは精神的ゆとりを感じられていますか。」という質問に対して、「0（全くあてはまらない）」～「10（とてもあてはまる）」の11段階で回答された平均値（「無回答/不明」を除く）
 ※ 3 「あなたは次のこと（子育てを楽しんでいる）が、どれくらいあてはまりますか。」という質問に対して、「0（全くあてはまらない）」～「10（とてもあてはまる）」の11段階で回答された平均値（「無回答/不明」を除く）
 (資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2024年調査のクロス分析を基に作成

子育て家庭の声

◆ 保育園を卒園した後、学童保育に入れるかも不安ですし、入れたとしてもいつまで入れるか不安です。乳児から成人するまでトータルで考えて欲しいです (3~5歳保護者、男性)

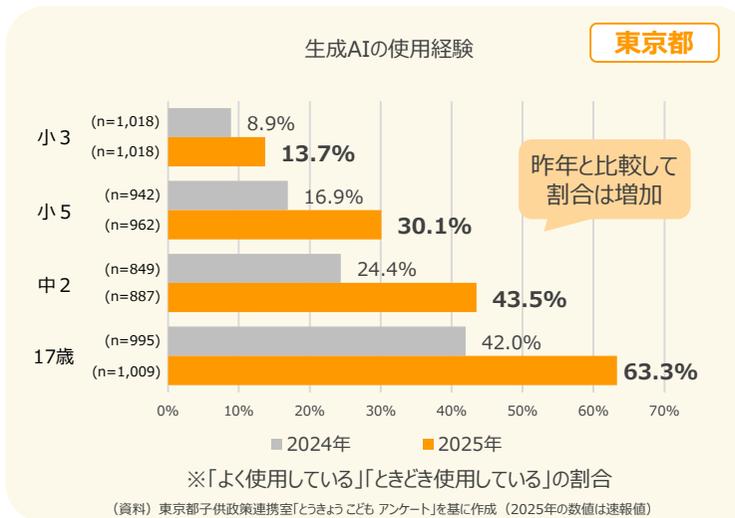
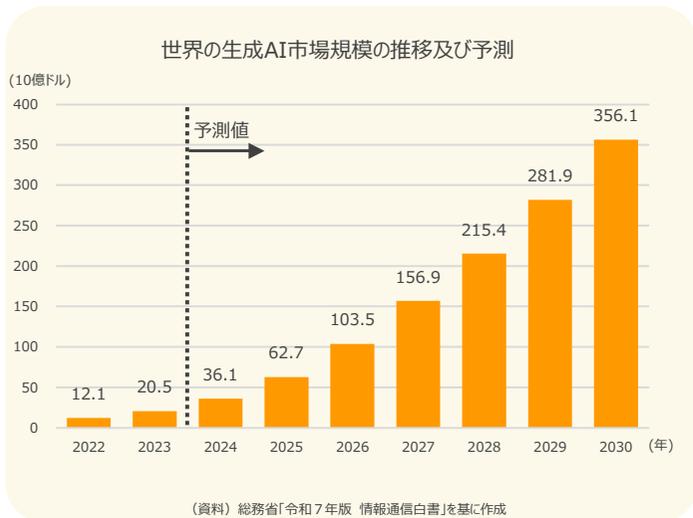
◆ 結婚を機に東京に住むこととなったが、周囲に子育てで頼れる存在がおらず、また、幼稚園や学校の状況が地方部とは大きく異なったため苦労した (40代、女性)

◆ 同じ人が何度も家庭訪問してくれるような子育て支援があると、子育ての相談等がしやすくなって良い。自分から行かない限り保健所の人は来ないため孤独だった (20代、女性)

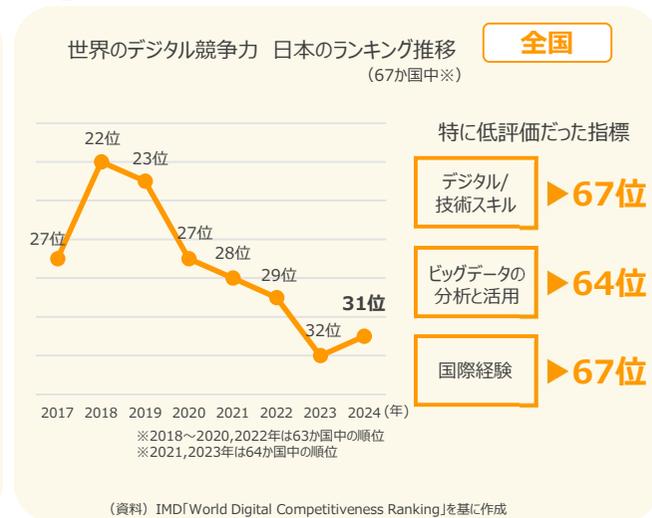
(資料) 東京都子供政策連携室「こども都庁モニター令和6年度第2回アンケート結果」及び「令和7年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に記載 (一部抜粋)

「東京型教育モデル」により、教育の質を向上

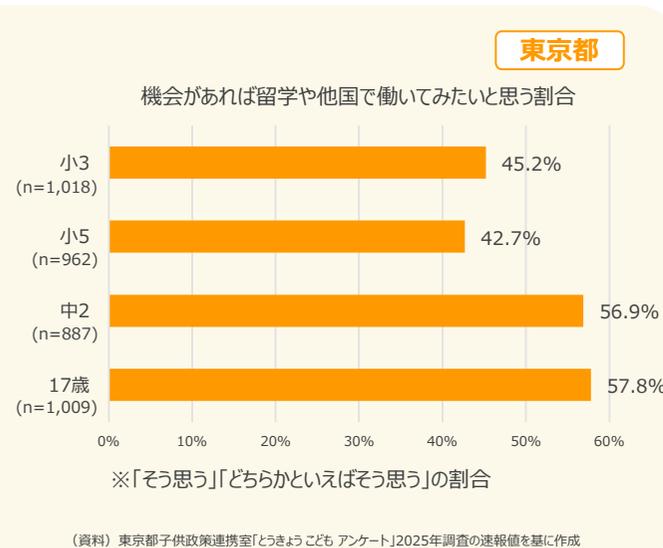
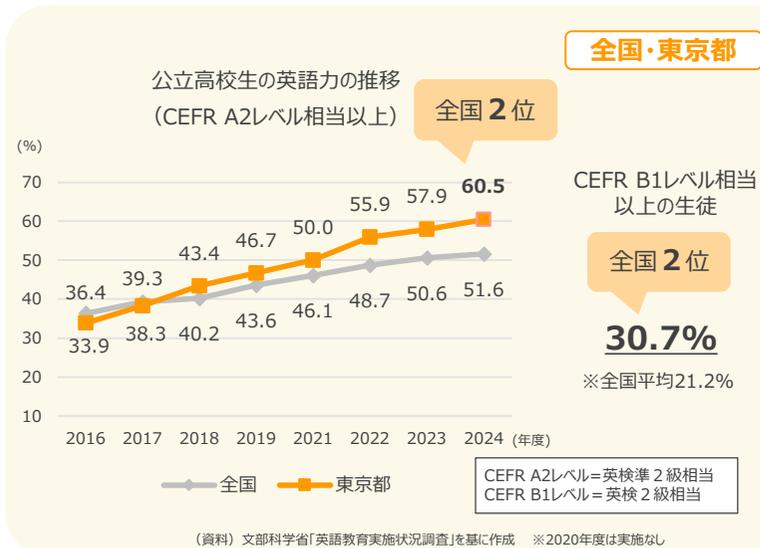
生成AI市場は大幅な拡大予測、学年が上がるほど生成AIの使用経験の割合は増加



日本のデジタル競争力は低下傾向



都内公立高校生の英語力は着実に向上、約半数の子供が留学等に興味を示している



日本語指導が必要な児童生徒は増加



特別な支援を要する児童・生徒は年々増加

東京都



(資料) 東京都教育委員会「令和6年度 公立学校統計調査報告書【学校調査編】」を基に作成

東京都



通常の学級/特別支援学級の児童・生徒と一緒に学習することを通じて、互いを知ることができたと思うか



交流・共同学習を通じて多くの生徒がお互いを理解

交流及び共同学習拡充支援事業実施地区 (世田谷区・北区・国立市)の小中学生 (n=869)

(資料) 東京都教育委員会「インクルーシブ教育システム体制整備に関する検討協議会 報告書」(2025年3月)を基に作成

>>> 子供の学びに関する意識・声

◆多くの子供が「学ぶことが将来に役立つ」と考えている

Q：今、学校で学んでいることは自分の将来や人生にとって役に立つ



※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合

◆半数を超える子供が「学ぶことが楽しい」と答えているものの、学齢が上がると割合が減少傾向

Q：学ぶことが楽しい



※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合

(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

◆学ぶことが楽しいと思う子供は、幸福度が高い傾向がある

学ぶことが楽しい	幸福度
そう思う	8.66
どちらかといえばそう思う	7.96
どちらかといえばそう思わない	7.19
そう思わない	6.31

※ 調査対象：小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳
 ※ 「学ぶことが楽しい」に対する回答と、「今の自分は幸せだ」の質問に対する回答 (0~10の11段階で評価) をクロス分析 (「無回答/不明」を除く)

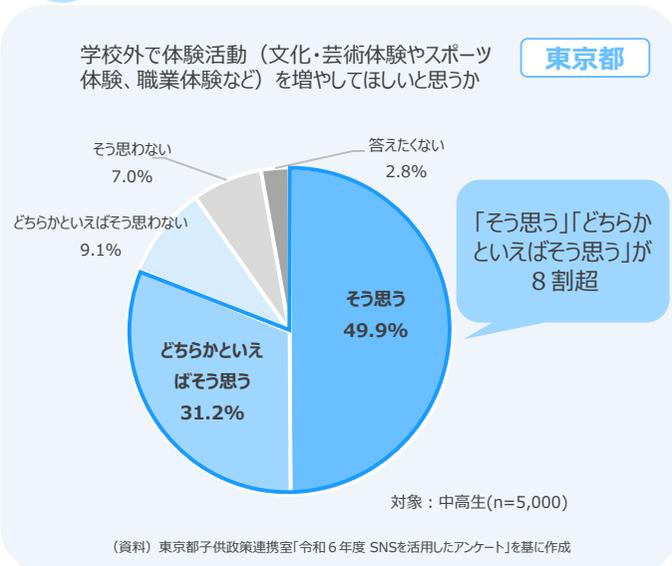
(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2024年調査のクロス分析を基に作成

子供の声

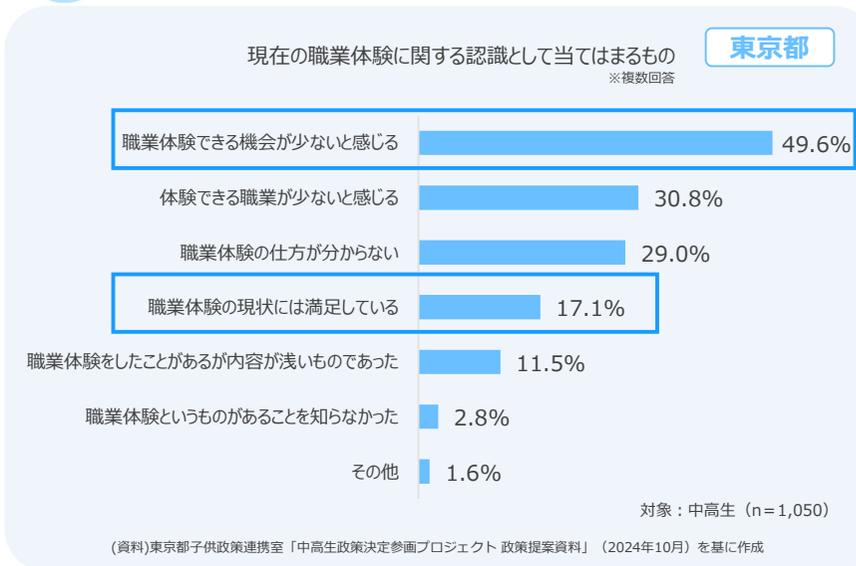
- ◆ わかると楽しい。わかるようになるのが楽しい (中学生@児童館)
- ◆ 勉強は成長が感じられるから好き (中学生@児童館)
- ◆ AIが授業してほしい (小学生@出前授業)
- ◆ プログラミングソフトを使うのが楽しい (中学生@児童館)
- ◆ せっかくの高校生なのだから、もっといろんなことに興味をもてる時間があれば、勉強ばかりではなく、みんなもいろいろなところに行けるのではないかな (高校生@子供食堂)

東京都子供政策連携室「子供の居場所で聴いた声」(2024年度実施分)及び東京都子供政策連携室が2024年度に実施した学校での出前授業におけるヒアリングを基に記載

多くの子供が学校外での体験活動を希望



現状の職業体験に満足している子供は少数



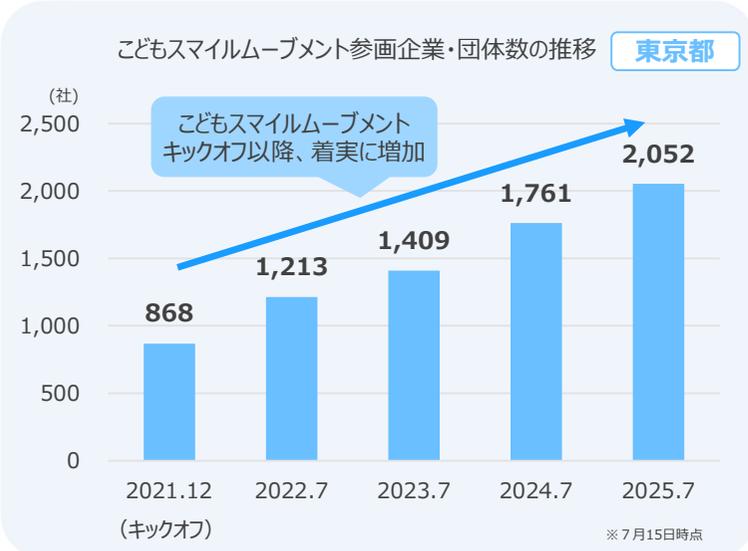
職業体験についての子供の声

- ◆ 中高生向けの職業体験が少ない
- ◆ 学校では**選択肢が少ない**
- ◆ 職業体験についての**情報が散乱**
- ◆ 見学ベースが多いなど**リアルさがない**



(資料) 東京都子供政策連携室「中高生政策決定参画プロジェクト 政策提案資料」(2024年10月)を基に記載

官民を含め参画企業・団体は増加



リアルな職業体験の機会を創出

- こどもスマイルムーブメント参画企業・団体と連携し、中高生のニーズに応じたリアルな職業体験の機会を提供する仕組み「TOKYO中高生職業体験サイト Job EX (ジョブイーエクス)」を構築

受入企業・団体
(2025年7月4日時点)
40社
定員約400名

うち **6社**

「TOKYO中高生職業体験サイト Job EX」の特徴	
リアルな職業体験の内容	・中高生のアイデアを受入企業・団体に提案 ・育児と仕事の両立体験 など
多様な企業・団体が受け入れ	・幅広い業種の企業・団体、公的機関、スタートアップ企業 など
中高生リポーターが取材	
募集人数	18名
レポート内容	・職業体験に自ら参加して取材 ・体験した内容や企業・団体の取組、経営層へのインタビュー等を中高生の目線で記事にして発信



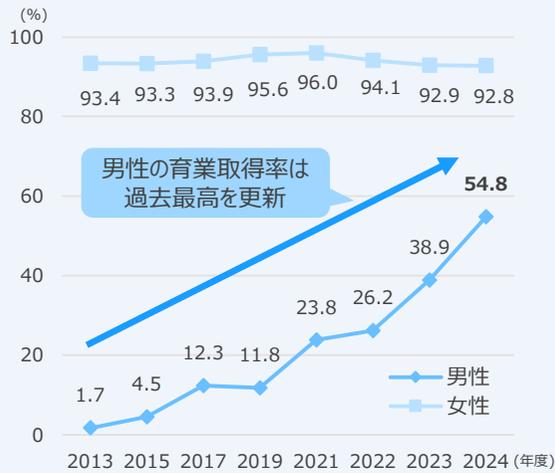
TOKYO中高生職業体験サイト Job EX



男性の育業取得率の現状と課題

東京都

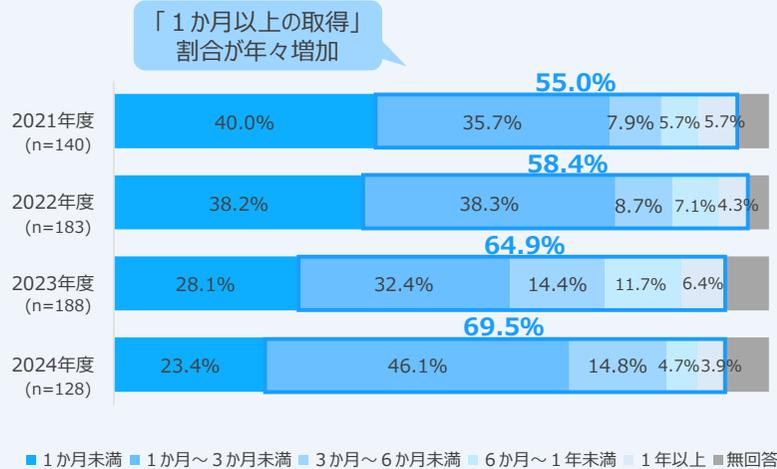
都内企業における男女別育業取得率の推移



(資料) 東京都産業労働局「令和6年度東京都男女雇用平等参画状況調査結果報告書」を基に作成

東京都

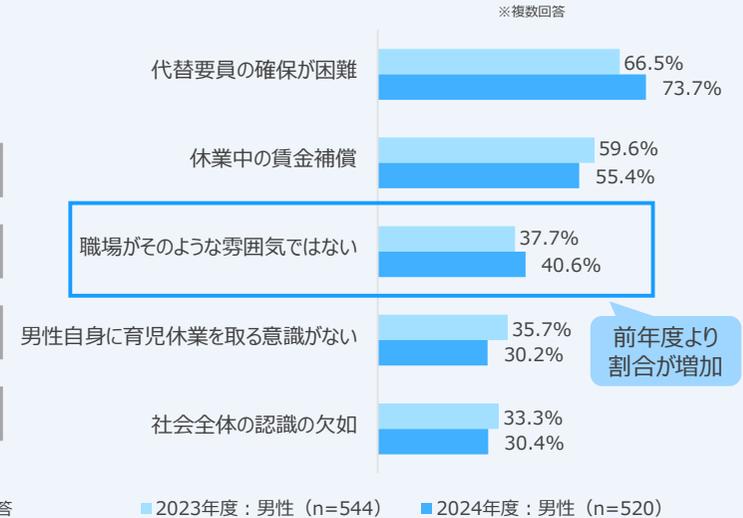
民間企業における男性の育児休業期間の推移



(資料) 東京都産業労働局「東京都男女雇用平等参画状況調査結果報告書(令和3～6年度)」を基に作成

東京都

男性の育児休業等取得に当たっての課題

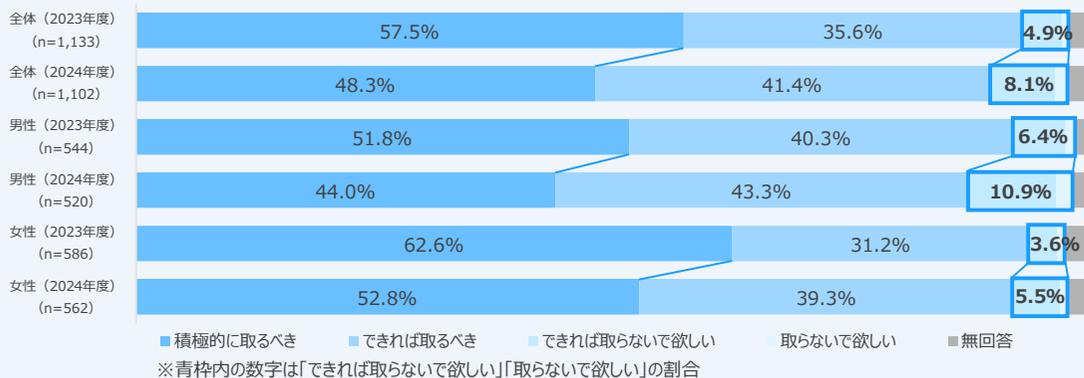


(資料) 東京都産業労働局「東京都男女雇用平等参画状況調査結果報告書(令和5～6年度)」を基に作成

同僚の育業を肯定的に捉えている割合は多い一方、否定的な割合も増加

東京都

同僚の育児休業・産後パパ育休取得についての考え

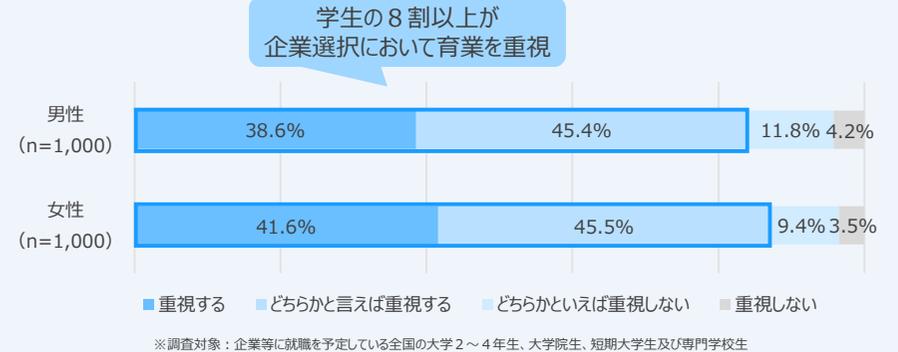


(資料) 東京都産業労働局「東京都男女雇用平等参画状況調査結果報告書(令和5～6年度)」を基に作成

育業は企業選択においても重要な指標

全国

企業選択において、育業取得率の高さや育業期間の長さをどの程度重視するか



(資料) 東京都子供政策連携室「就職を予定する大学生等の『育業』に関する意識調査」(2024年11月)を基に作成

政策強化の方向

子供を取り巻く環境や課題を踏まえ、子供一人ひとりに寄り添ったきめ細かな政策を展開

政策の柱 1

誰一人取り残さない視点から、
子供へのサポートを強化

- ✓ いじめや不登校、虐待など悩みや困難を抱えている子供に対し、不安や悩みの深刻化の予防・解消や、問題解決に向けた多面的・継続的な支援が必要
- ✓ 一人ひとりの状況に応じた支援を一層充実・強化し、全ての子供が安全に安心して自分らしく成長できる環境づくりが必要

政策強化の方向

様々な困難を抱える子供に寄り添い、
一人ひとりの状況に応じた支援を一層強化

政策の柱 2

子育て家庭に寄り添い、
子供の育ちを支える環境を充実

- ✓ 子供が健やかに成長していくためには、成長・発達段階に応じた多様なニーズを踏まえて子育て家庭をサポートしていくことが求められる
- ✓ 保育の質の更なる向上や障害のある子供への対応、在宅子育て家庭への支援など、多様なニーズに応じた全ての子供の育ちのサポートが必要
- ✓ 働き方の変化による保護者ニーズの多様化も踏まえ、朝や放課後の子供の安全・安心な居場所の充実が必要

政策強化の方向

子育て家庭のニーズを的確に捉えたサービスの充実
など子供の健やかな育ちを支える環境づくりを推進

政策の柱 3

「東京型教育モデル」により、
教育の質を向上

- ✓ 技術革新やグローバル化等により、変化が多く、先行きが不透明で将来予測が困難な時代において、AIやデジタルを活用した問題解決力・価値創造力の育成や、国際感覚のかん養、グローバルな発想を持って世界を舞台に活躍できる力を育むことが一層重要
- ✓ 障害の有無など多様な背景を持つ子供たちが共に学び、共に伸びる教育環境が必要

政策強化の方向

予測が困難な時代において、DXも活用しながら、
誰一人取り残さず、一人ひとりの学び・挑戦を支援

政策の柱 4

多様な主体と連携し、
子供の笑顔を育むアクションを展開

- ✓ 中高生の職業体験をはじめ、子供のニーズに即した様々な体験機会の創出に向け、自治体や企業・団体など多様なステークホルダーとの連携強化を図りながら「こどもスマイルムーブメント」の取組をさらに充実させていくことが必要
- ✓ 育業を支える側が育業当事者を応援できるような環境づくりなど、職場全体で育業を後押しする多面的な取組が必要

政策強化の方向

官民が一体となって、子供の社会参画の機会を創出
するなど、社会全体で子供を大切にする気運を醸成

